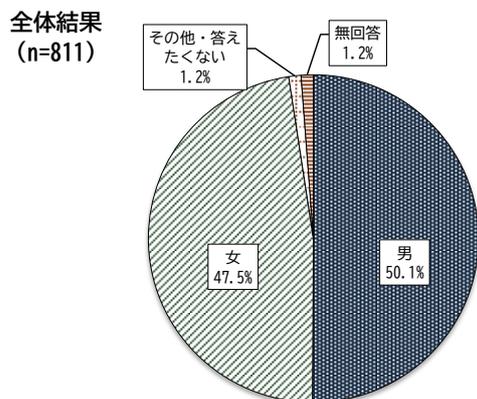


### Ⅲ 子どもの生活状況編

#### 1. 子ども回答者の基本属性

##### ①性別

問 あなたの性別を教えてください。(SA)

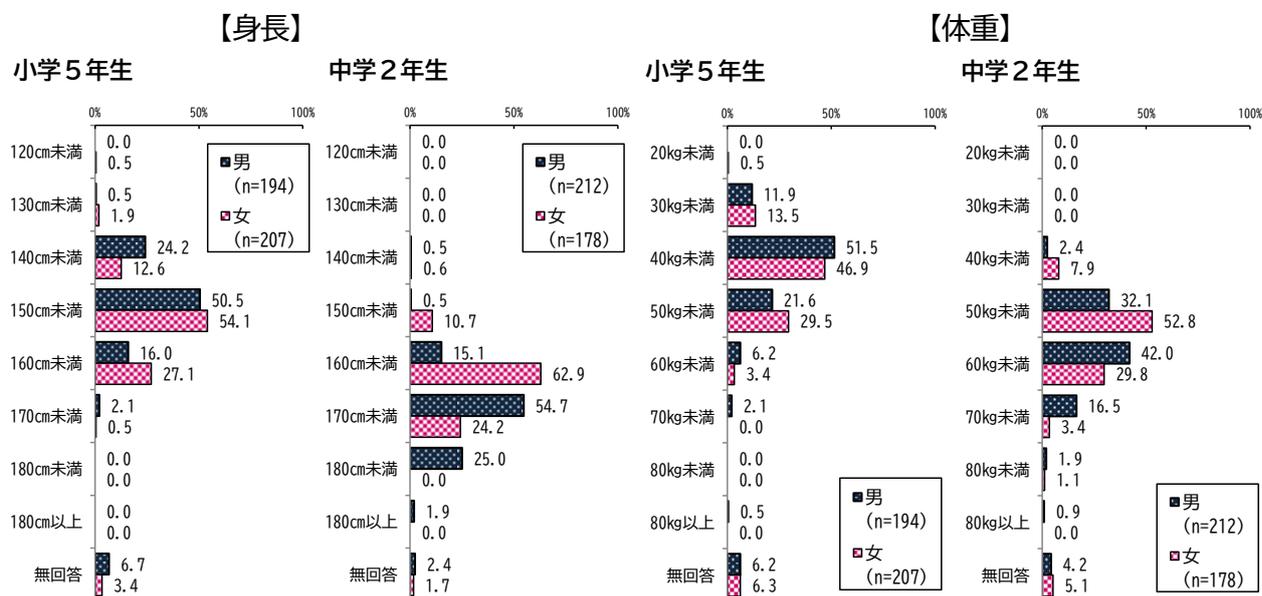


##### 【結果のサマリー】

回答者の学年と性別は左図のとおりです。

##### ②身長・体重別

問 あなたの身長と体重を教えてください。(NA)



##### 【結果のサマリー】

回答者の身長と体重は上図のとおりです。

参考として、令和2年度の学校保健統計による平均値を以下に掲載します。

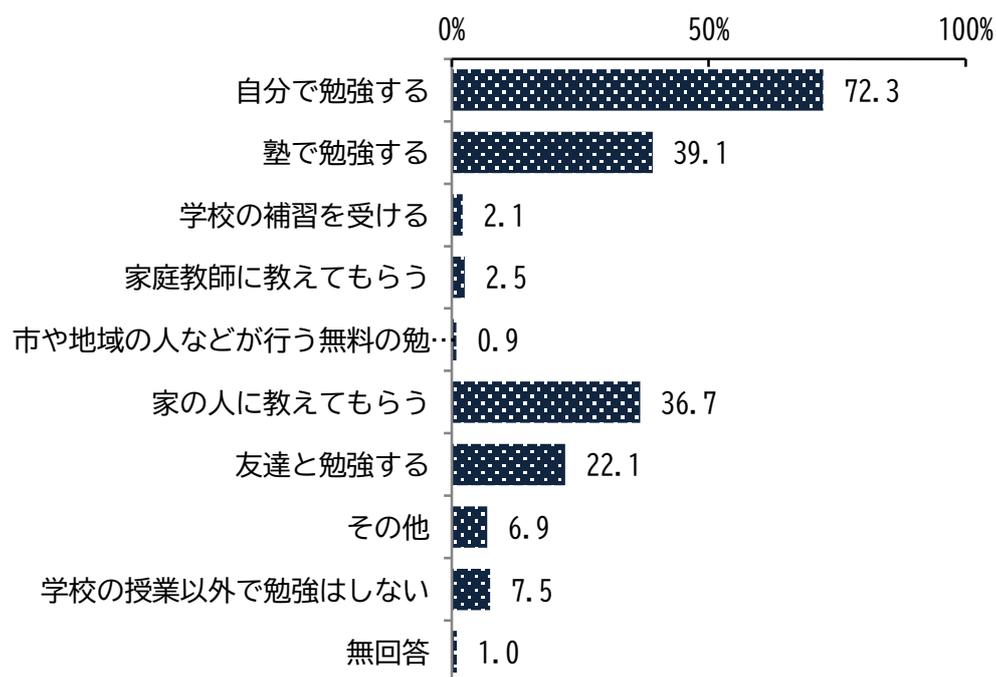
- 小学5年生の男子：身長 140.1cm・体重 35.9 kg
- 小学5年生の女子：身長 141.5cm・体重 35.4 kg
- 中学2年生の男子：身長 161.4cm・体重 50.9 kg
- 中学2年生の女子：身長 155.2cm・体重 47.9 kg

## 2. 学習や勉強、成績、授業理解の状況について

### ①授業以外での勉強方法

問 あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。勉強には、学校の宿題もふくみます。(MA)

### 全体結果 (n=811)

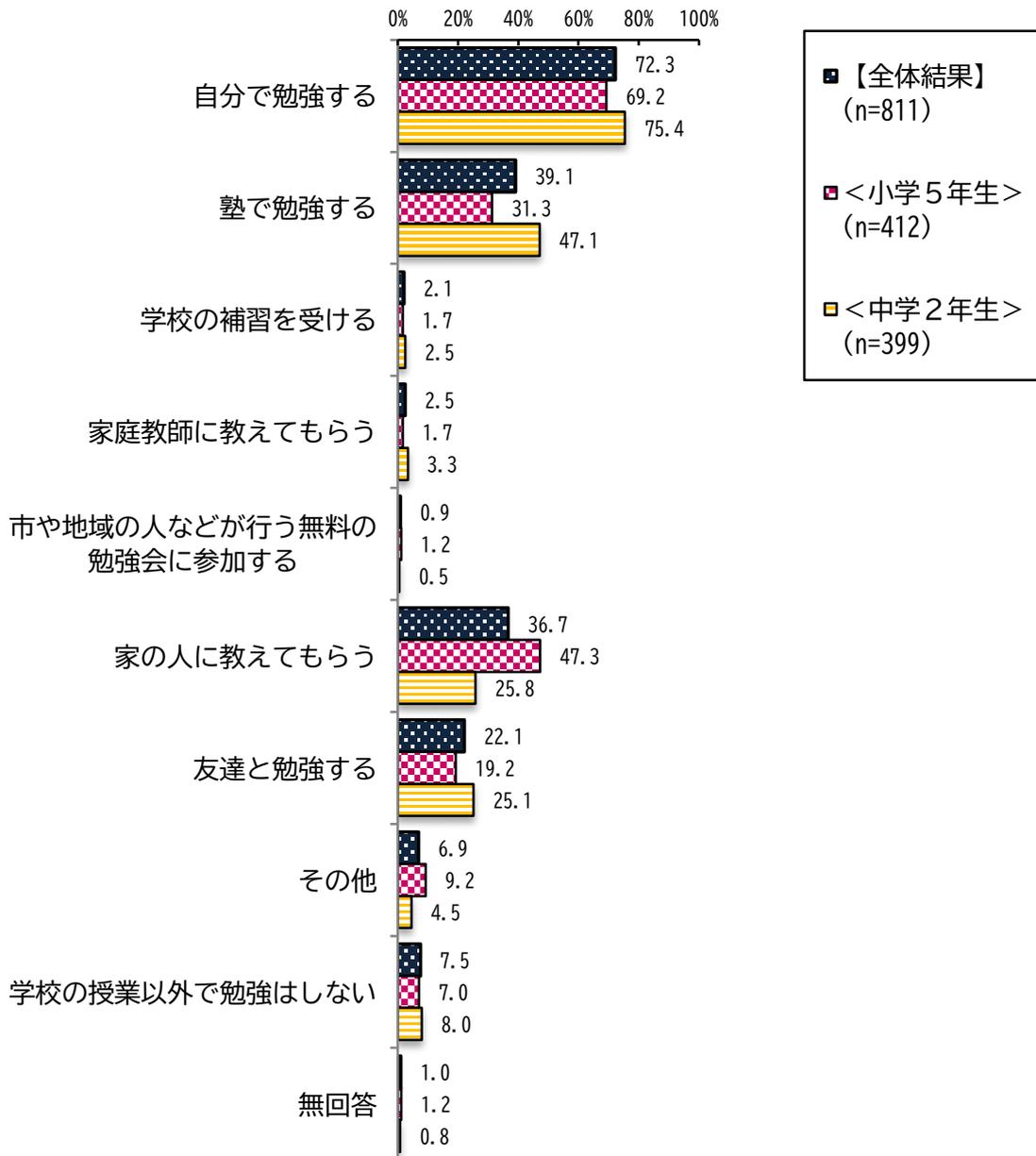


#### 【結果のサマリー】

7割以上の子どもが「自分で勉強する」と回答しています。次いで「塾で勉強する」、「家の人に教えてもらう」が続いています。

一方で、「学校の授業以外で勉強はしない」子どもも1割未満いることが調査よりわかりました。

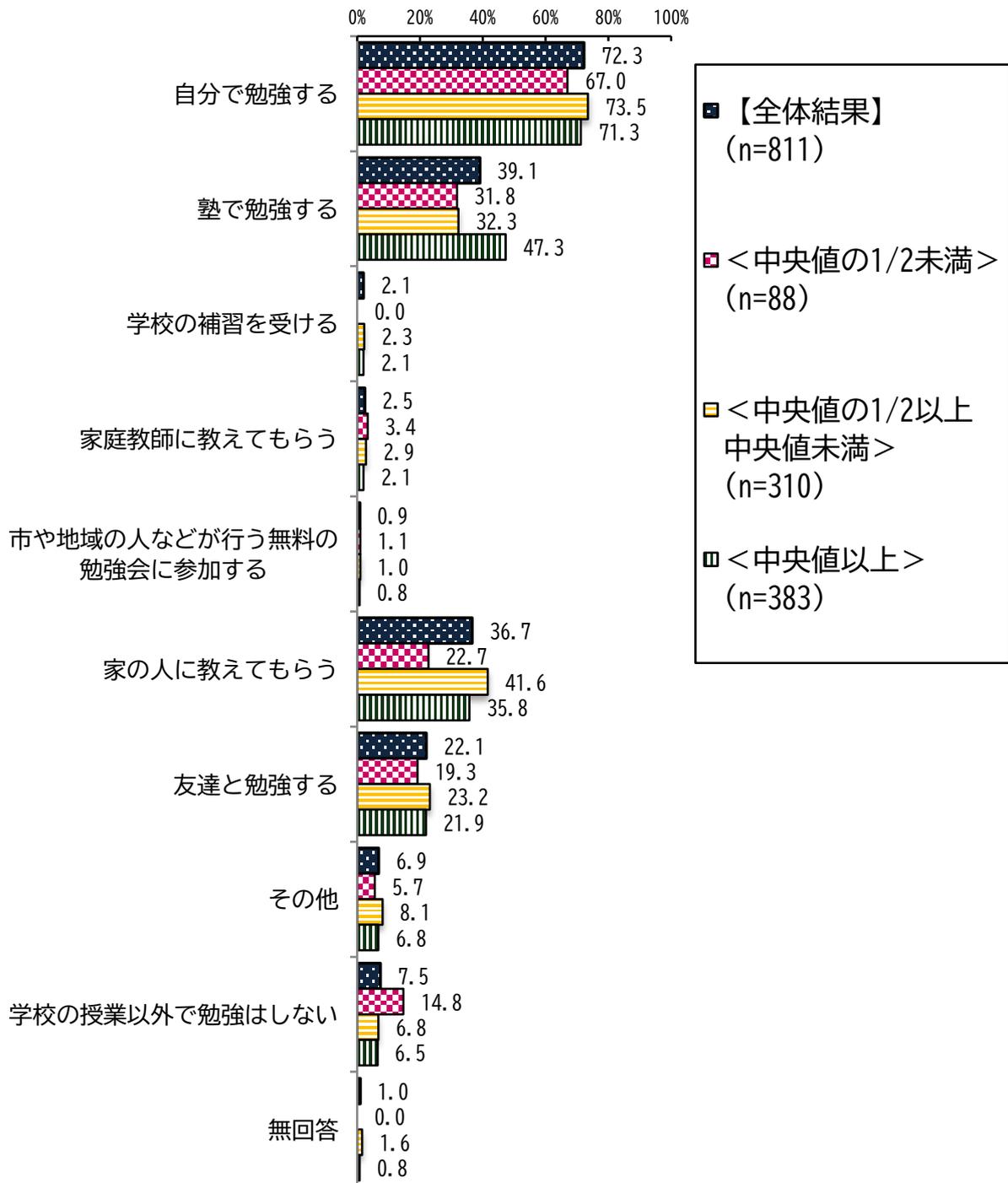
(学年別にみた「授業以外での勉強方法」)



【特徴的な傾向や課題など】

<中学2年生>の方が「塾で勉強する」割合が高く、「家の人に教えてもらう」割合が低い傾向にあります。

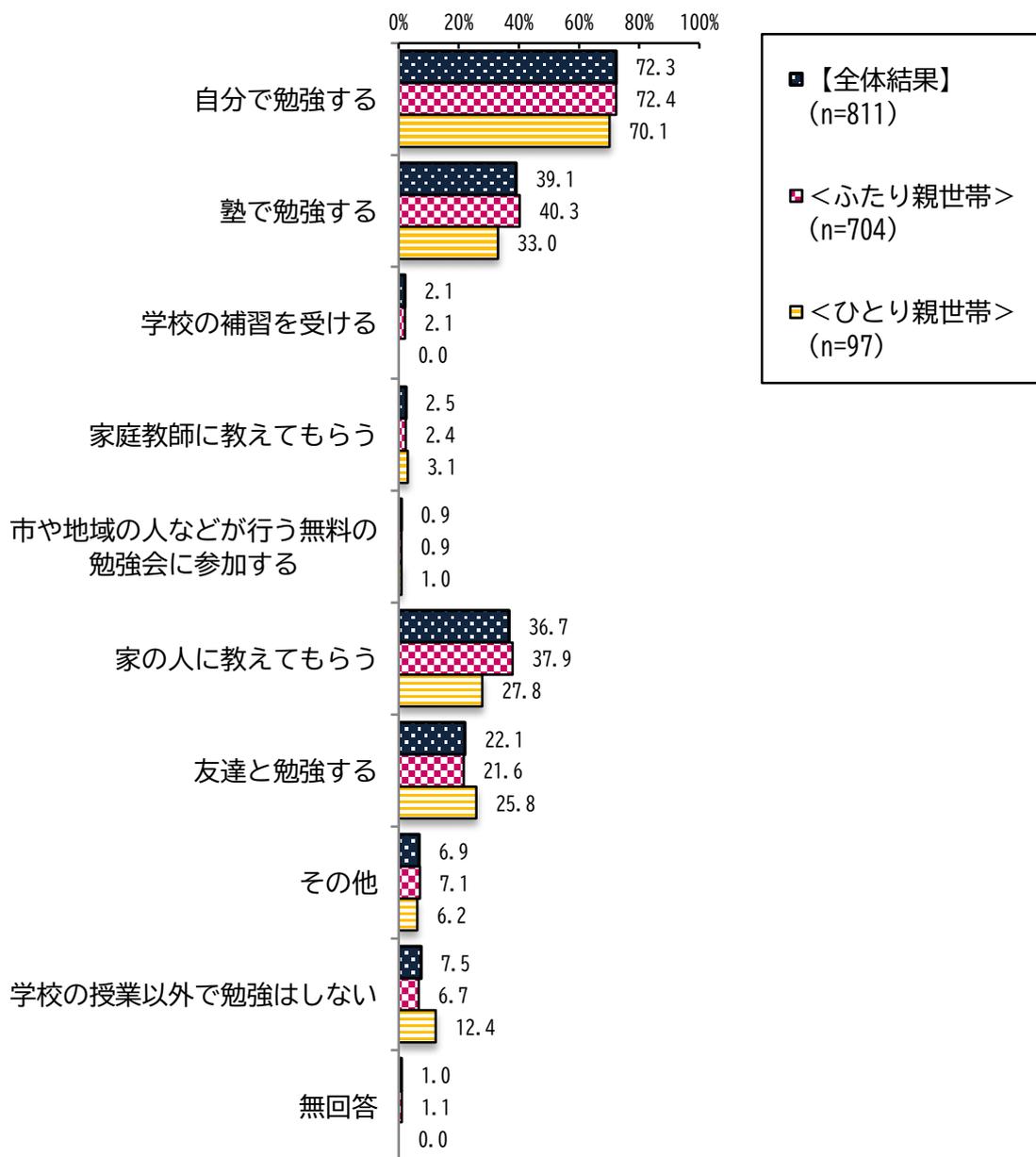
(等価世帯収入別に見た「授業以外での勉強方法」)



【特徴的な傾向や課題など】

<等価世帯収入が低い層>の子どもは、他の層に比べて、塾に通う割合が低く、学校の授業以外で勉強しない割合が高くなっています。経済的な理由で学習の機会が限られている可能性があります。

(世帯構成別にみた「授業以外での勉強方法」)

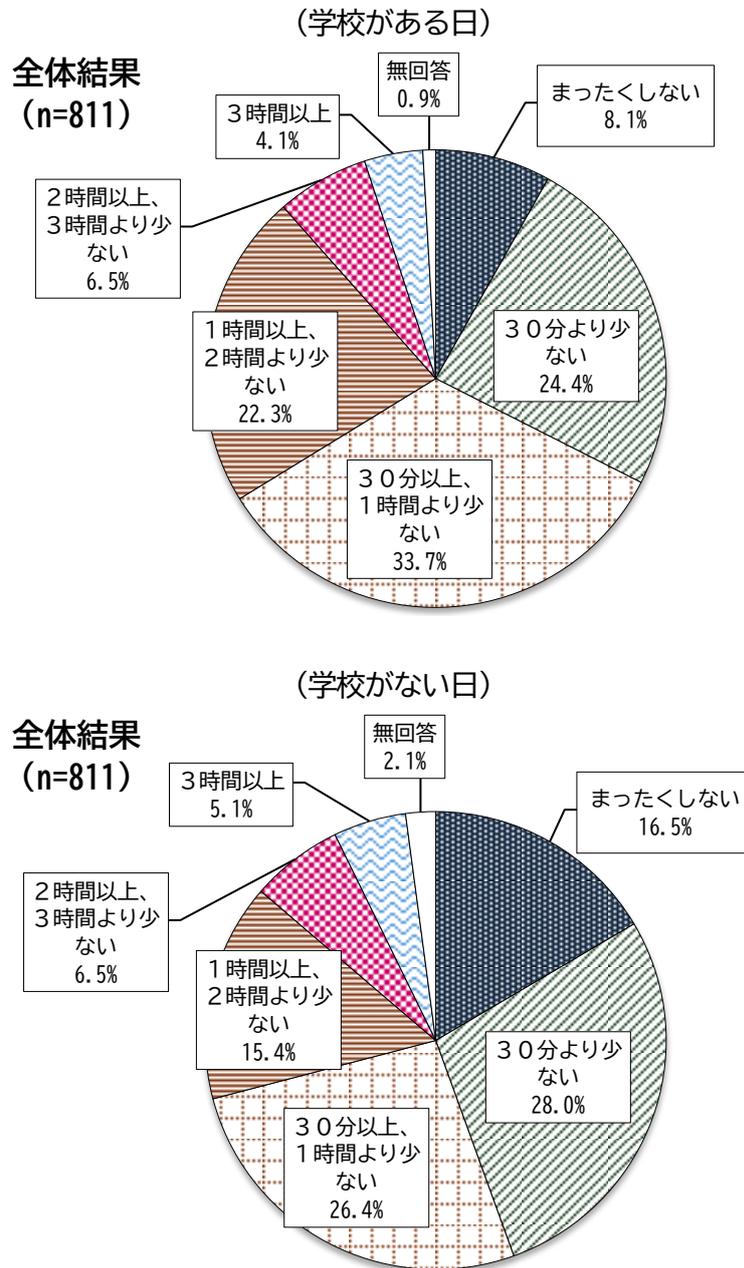


【特徴的な傾向や課題など】

<ひとり親世帯>の子どもは「家の人に教えてもらう」割合が<ふたり親世帯>よりも低いため、家庭での学習支援が十分でない可能性があります。さらに、前述のとおり、学年が上がるにつれて塾での学習が増え、家庭での学習が減る傾向にあるため、特に<ひとり親世帯>では、子どもの成長とともに家庭での学習支援が難しくなるという課題がみられました。

## ②授業以外の勉強時間

問 あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日にどれくらいの時間、勉強をしますか。(各SA)  
 a) 学校がある日(月曜日～金曜日)  
 b) 学校がない日(土・日曜日・祝日)

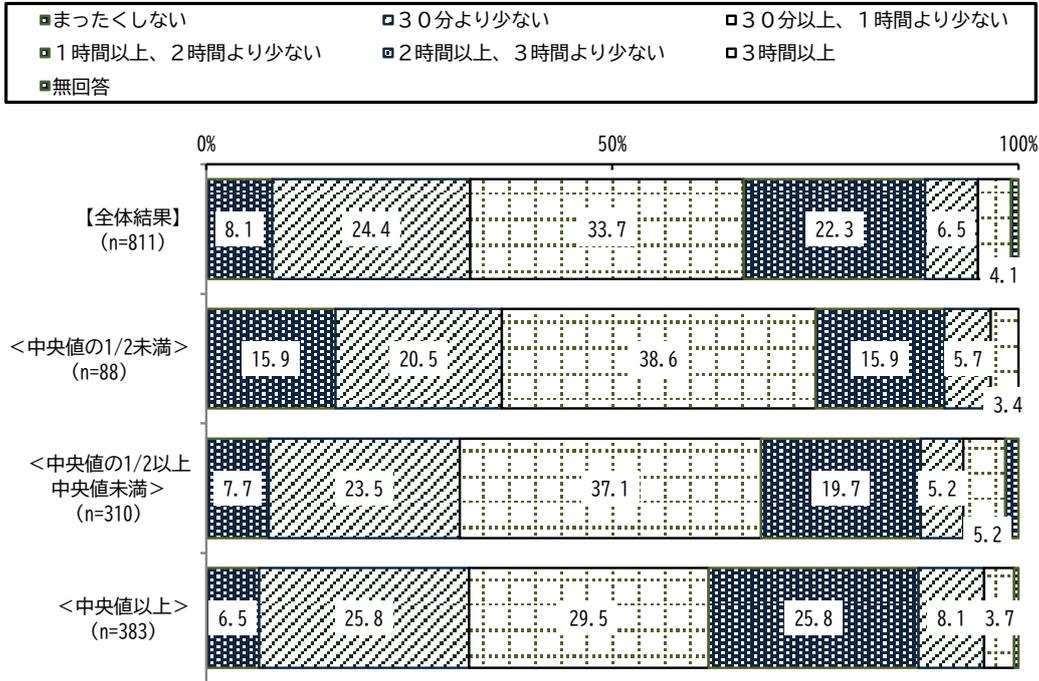


### 【結果のサマリー】

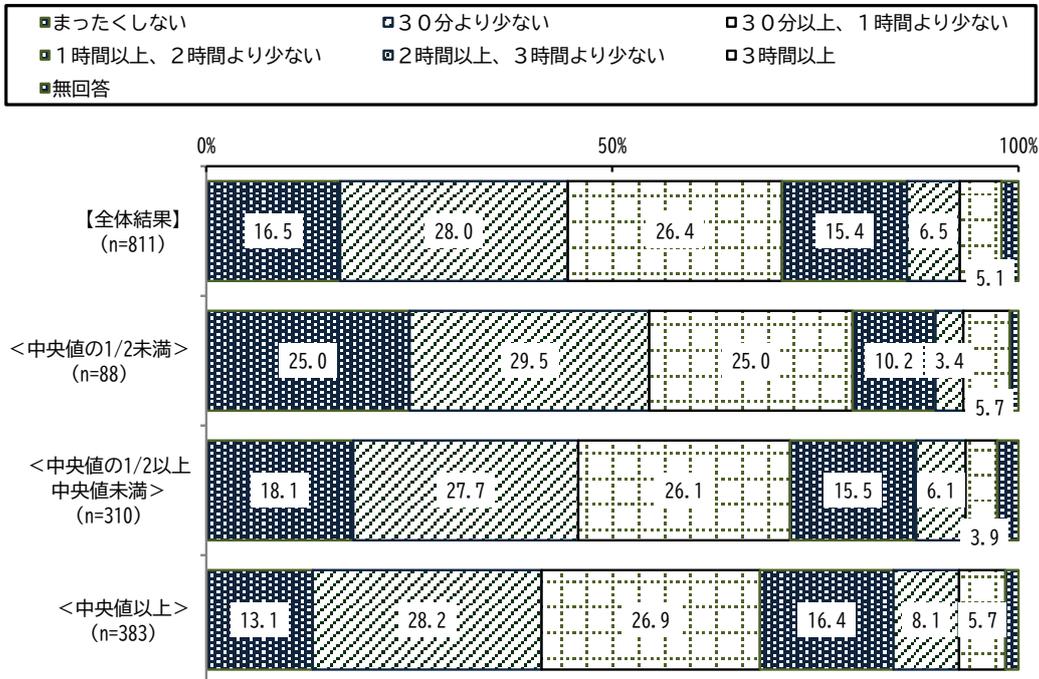
学校がある日、学校がない日ともに「30分以上、1時間より少ない」が最も多くなっています。

(等価世帯収入別にみた「授業以外の勉強時間」)

(学校がある日)



(学校がない日)

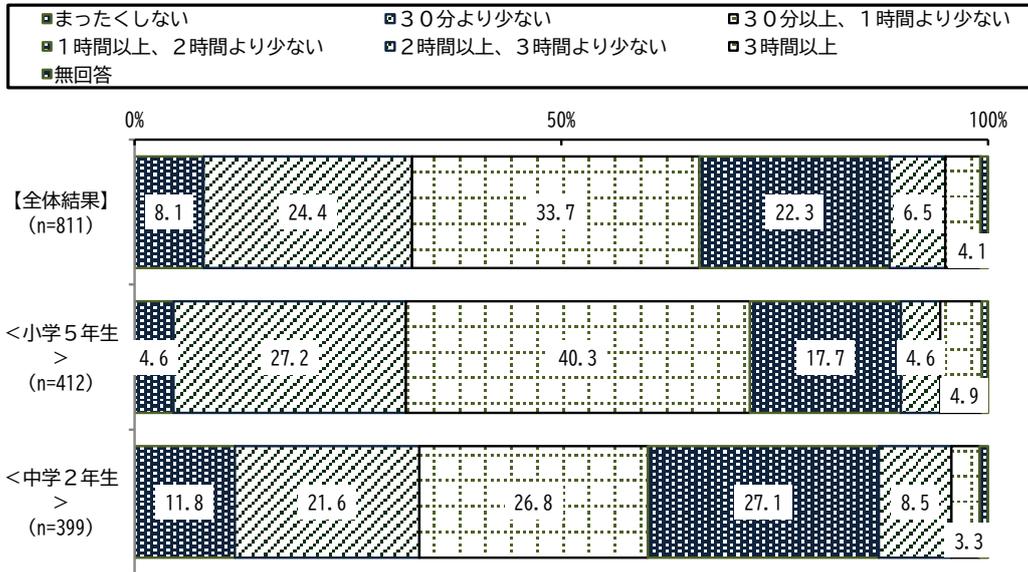


【特徴的な傾向や課題など】

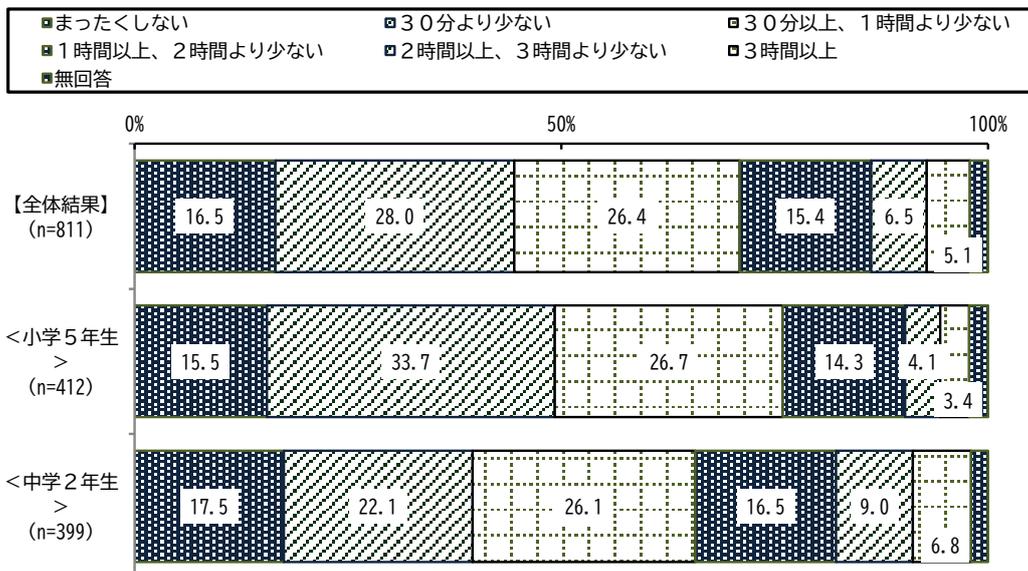
学校がある日、学校がない日ともに<等価世帯収入が低い層>では学習時間が短い傾向がみられます。放課後や休日を活用した学習支援が必要かもしれません。

(学年別にみた「授業以外の勉強時間」)

(学校がある日)



(学校がない日)

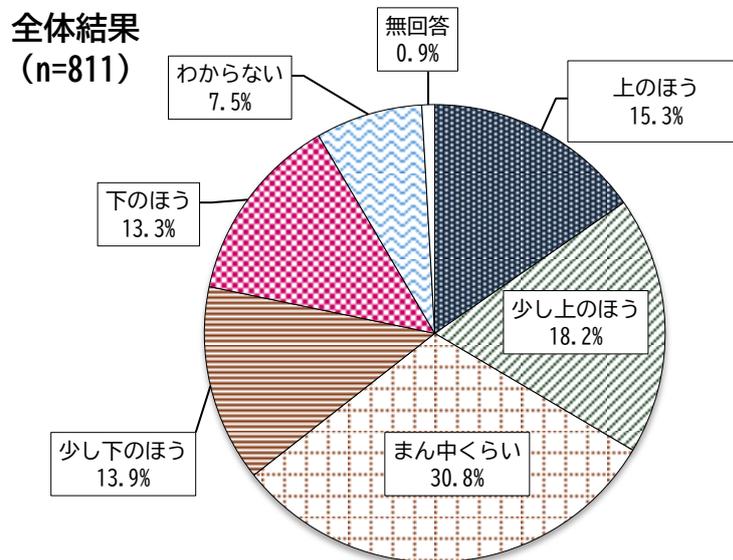


【特徴的な傾向や課題など】

学年が上がるにつれて、勉強時間は増える傾向にありますが、小学生のうちから効率的な学習習慣を身につけるための支援が必要かもしれません。

### ③成績への自己評価

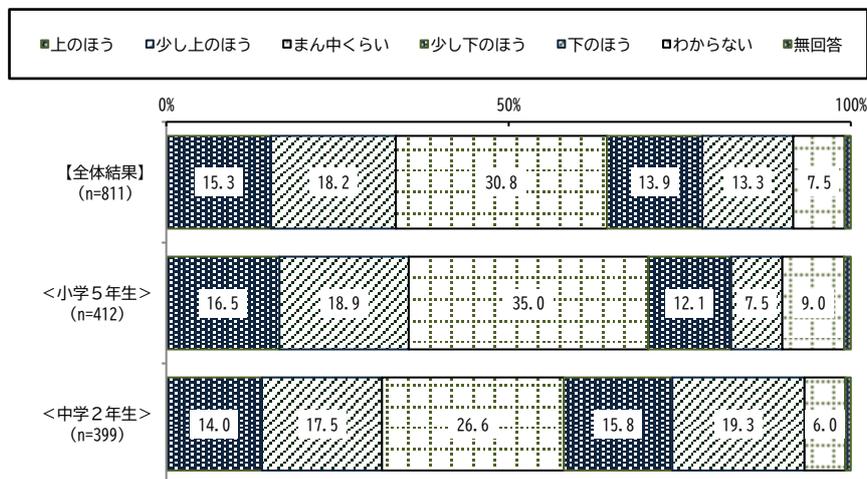
問 あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。(SA)



#### 【結果のサマリー】

自己評価における成績の位置づけは「まん中くらい」が最も多く、約3割を占めています。

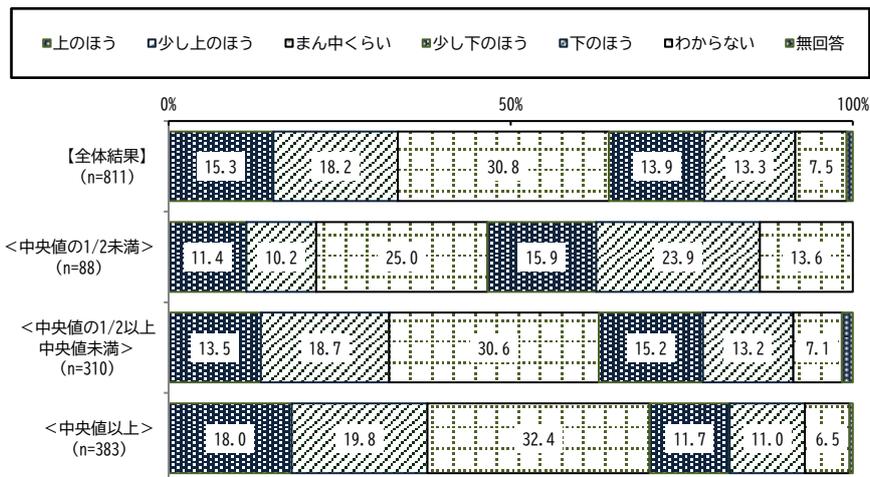
#### (学年別にみた「成績への自己評価」)



#### 【特徴的な傾向や課題など】

学年が上がるにつれて、自己評価における成績の位置づけがやや低下する傾向が見られます。

(等価世帯収入別に見た「成績への自己評価」)



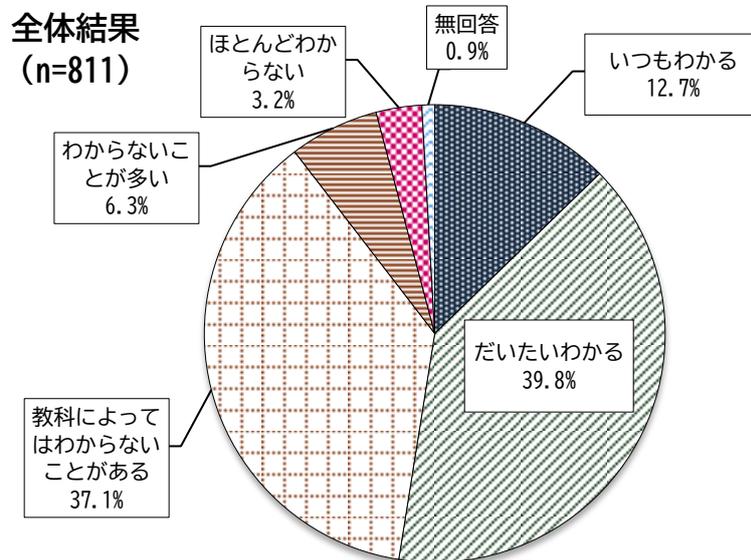
【特徴的な傾向や課題など】

<等価世帯収入が低い層>では「下のほう」が全体平均よりも高く、「上のほう」が低い傾向があります。

<等価世帯収入が低い層>では自己評価が低めであることから、経済的な支援と併せて、学習の機会や環境を整えることも重要です。

#### ④授業理解について

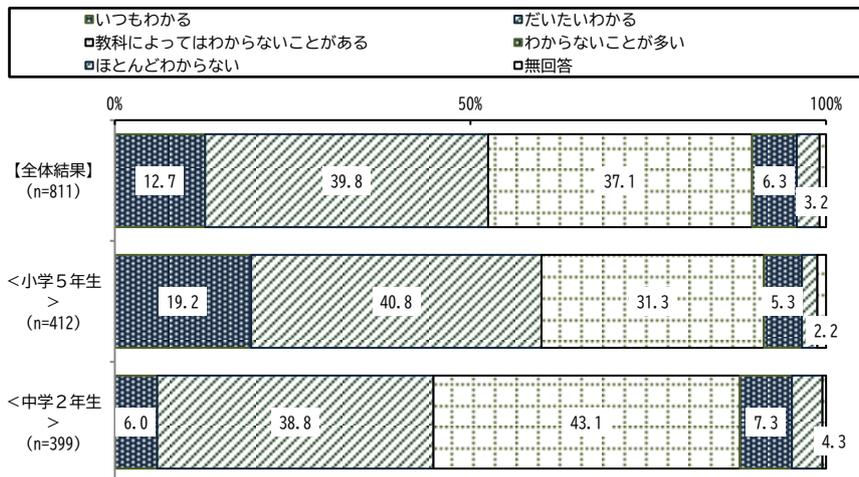
問 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(SA)



#### 【結果のサマリー】

「だいたいわかる」と回答した割合が最も多く、約4割を占めています。  
 「教科によってはわからないことがある」との回答が続きます。

#### (学年別にみた「授業理解について」)



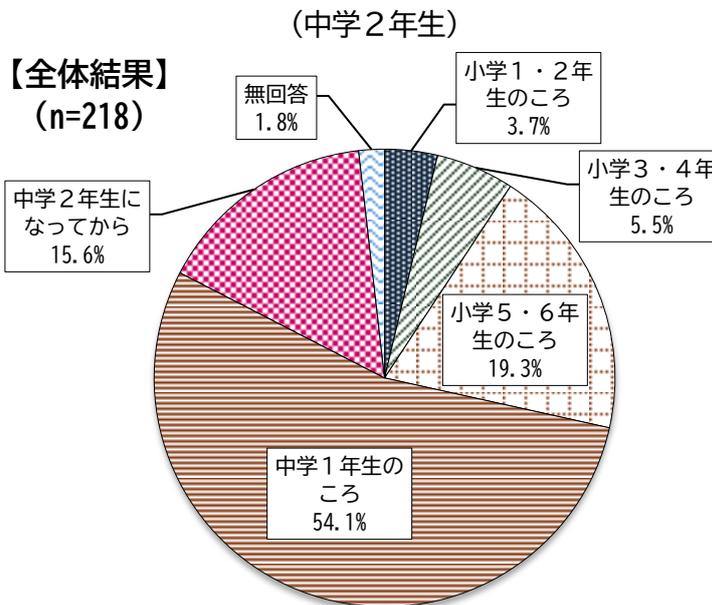
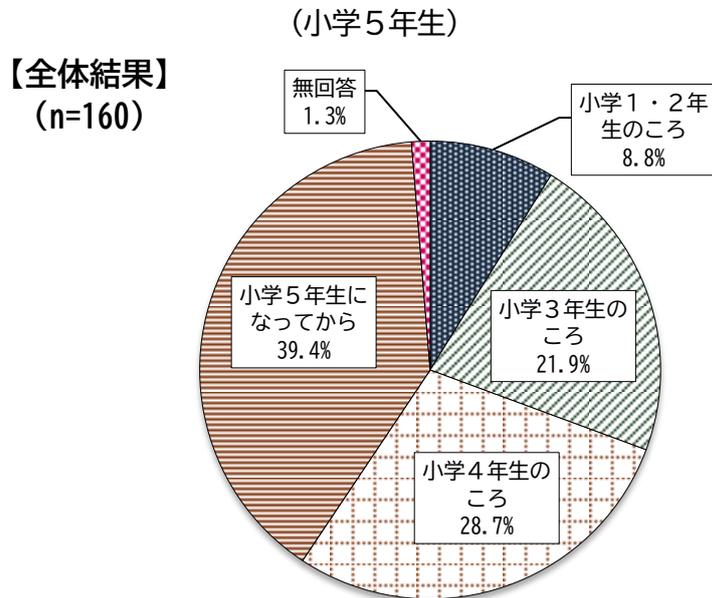
#### 【特徴的な傾向や課題など】

学年が上がるにつれて、授業の理解度が下がる傾向が見られます。中学生になると学習内容が難しくなるため、授業の理解度を向上させるためのサポートが必要です。

また、「教科によってはわからないことがある」という回答が多いことから、個々の教科に特化した学習支援も求められます。

## ⑤わからなくなった時期

該当設問 いつごろから、授業がわからないことがありますようになりましたか。(SA)



### 【結果のサマリー】

小学生は、『小学4年生以降』になってからという回答が多くなっています。

中学生は、「中学1年生のころ」からという回答が多くなっています。

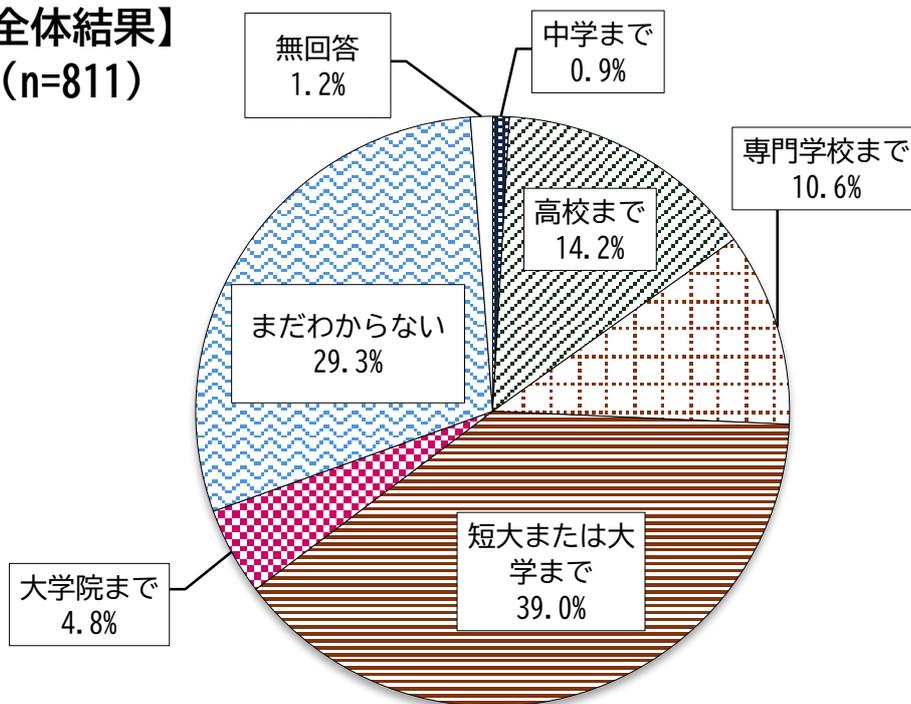
学年が上がるにつれて、授業理解に困難を感じる生徒が増える傾向が見られます。特に、小学校から中学校への移行期において、授業理解に困難を感じる生徒が多くなっています。

### 3. 進学希望や将来の目標について

#### ①希望する進学先

問 あなたは、将来、どの学校まで進学したいですか。(SA)

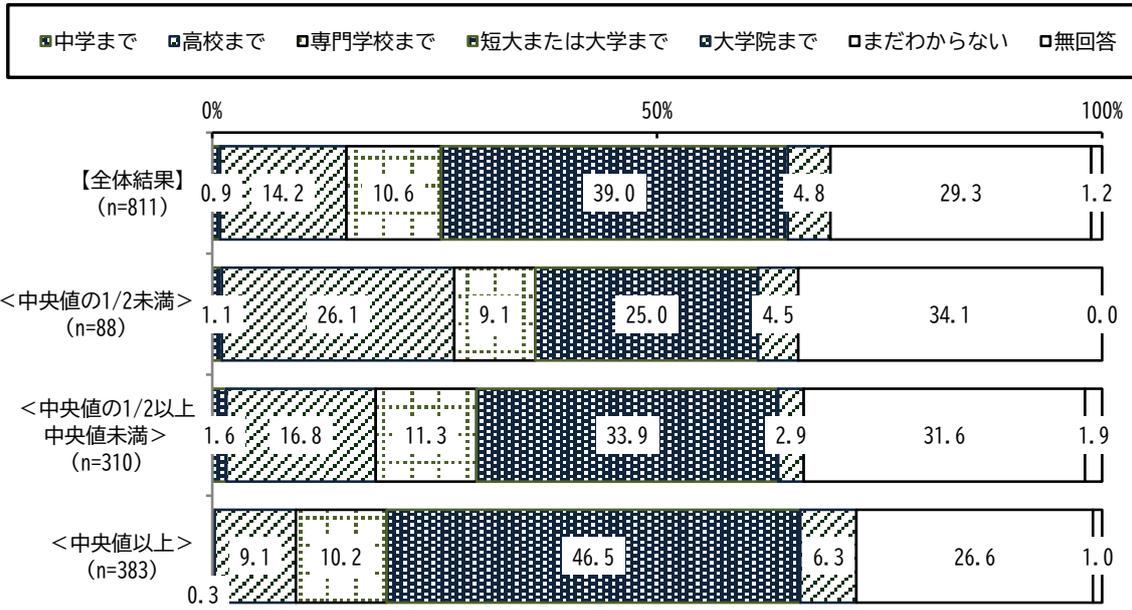
#### 【全体結果】 (n=811)



#### 【結果のサマリー】

「短大または大学まで」進学したいと考えている割合が最も高く、約4割を占めています。  
「まだわからない」と回答した割合も約3割あります。

(等価世帯収入別に見た「希望する進学先」)



【特徴的な傾向や課題など】

経済的な背景によって進学意向に差があることが明らかになりました。

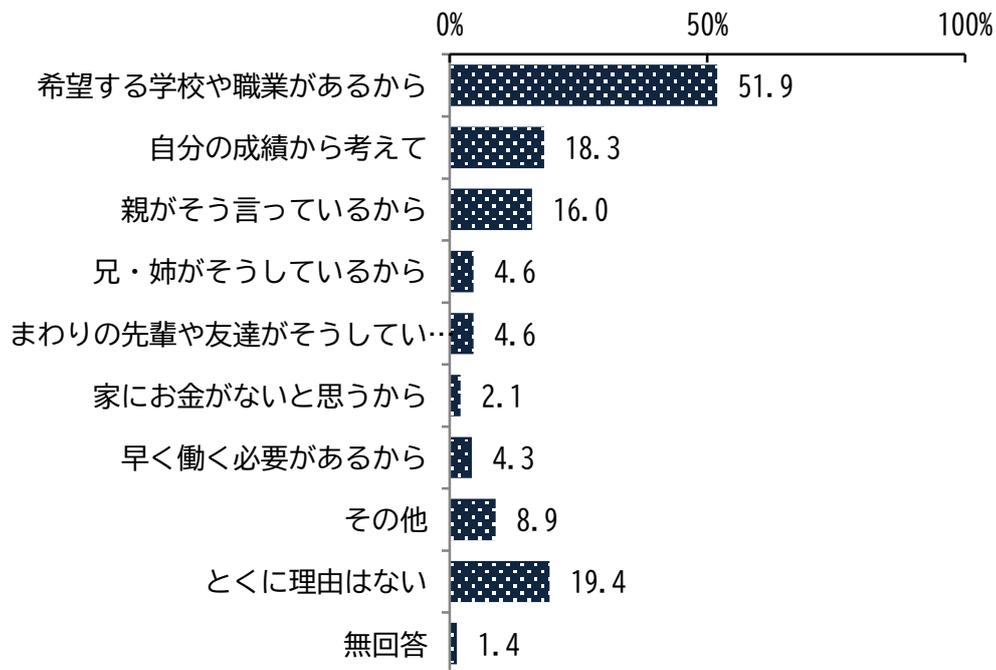
<等価世帯収入が低い層>では「高校まで」の進学意向が高く、収入が高くなる層ほど「短大または大学まで」の進学意向がより強くなります。

## ②進学先選定理由

該当設問 『希望進学先』をそう考える理由を教えてください。(MA)

### 【全体結果】

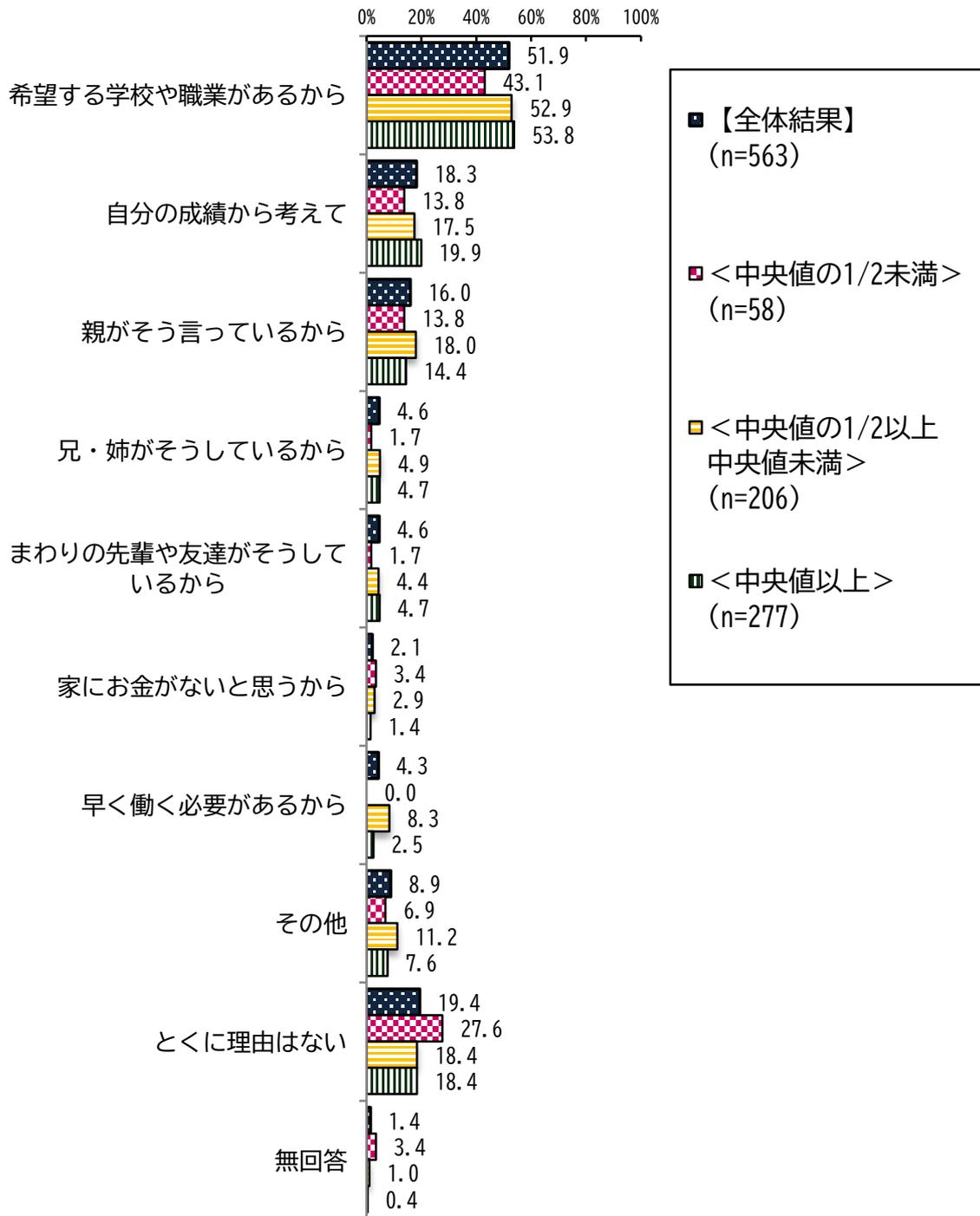
(n=563)



### 【結果のサマリー】

最も多い理由は「希望する学校や職業があるから」で半数以上が回答しています。次いで、割合は大きく低下し、「自分の成績から考えて」や「親がそう言っているから」が続きます。

(等価世帯収入別に見た「進学先選定理由」)

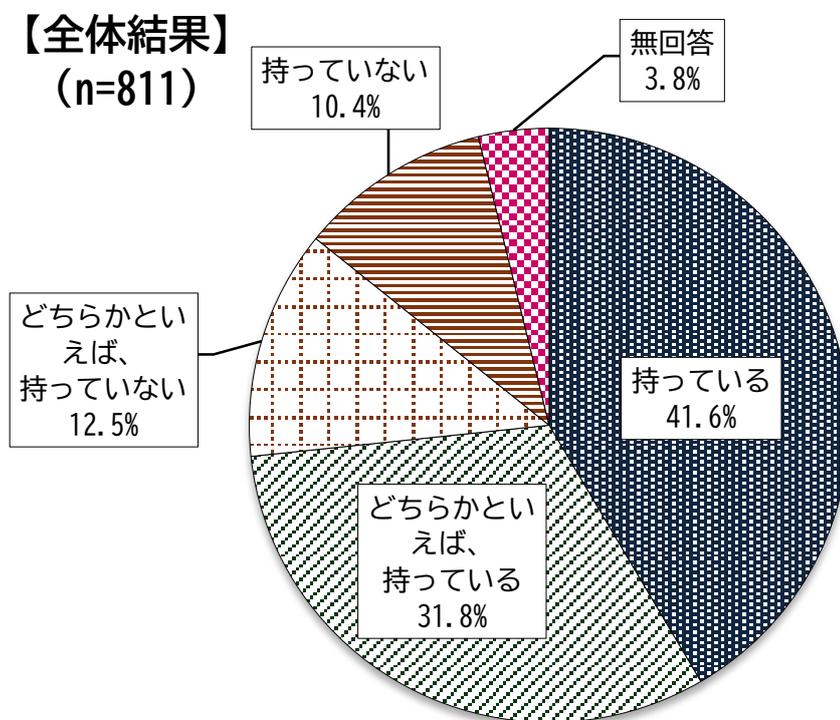


【特徴的な傾向や課題など】

<等価世帯収入が低い層>では「希望する学校や職業があるから」という理由が他の層よりも少なく、「とくに理由はない」と回答する割合が高いことから、進学や将来の職業に対する具体的なビジョンが持ちにくい状況にあると考えられます。

### ③夢や希望の有無

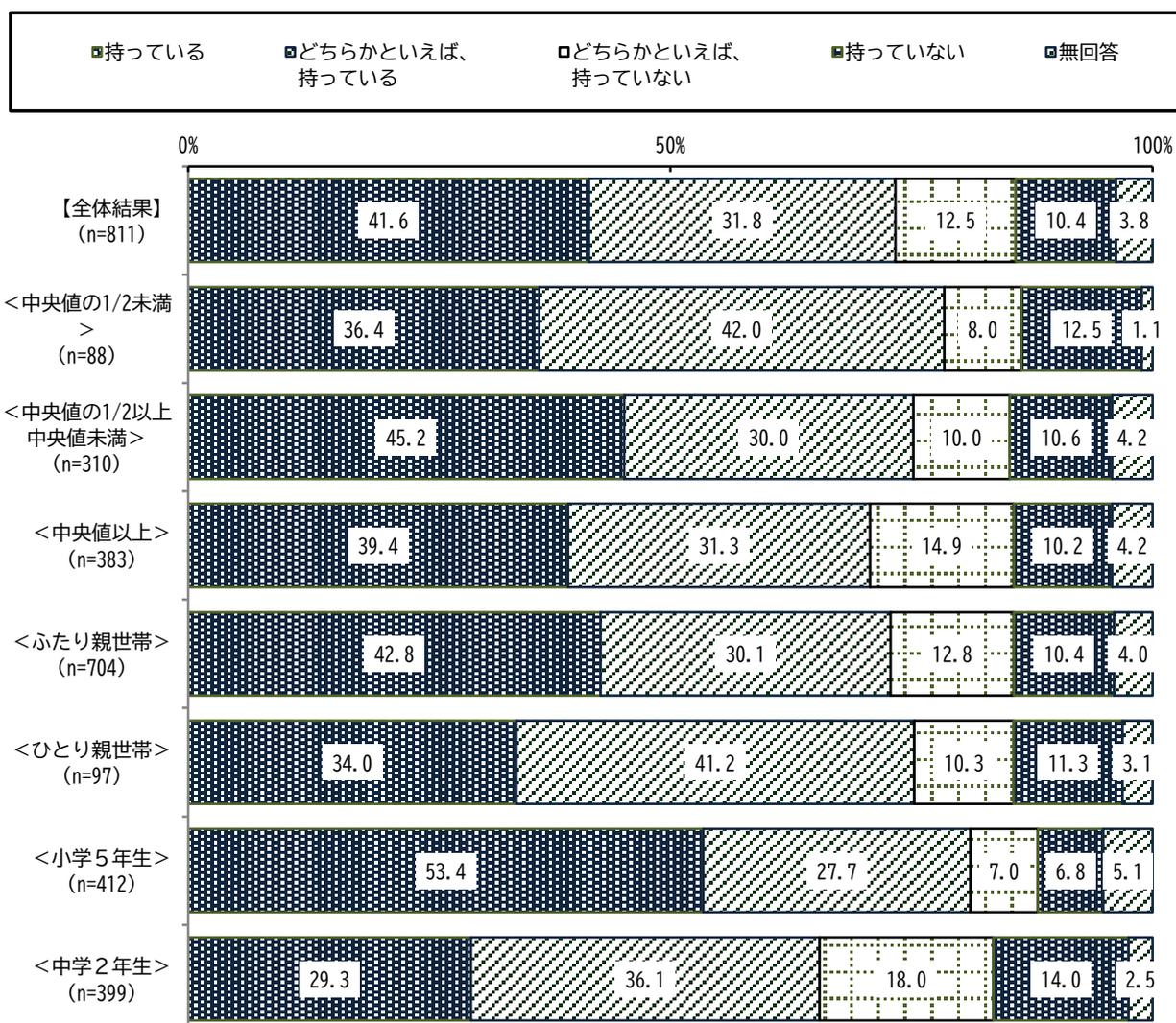
問 あなたは将来の夢や目標を持っていますか。(SA)



#### 【結果のサマリー】

「持っている」と答えた人と「どちらかといえば、持っている」と答えた人を合わせた約4人に3人(73.4%)が夢や目標を『持っている』と回答しています。

(等価世帯収入別・世帯構成別・学年別にみた「夢や希望の有無」)



【特徴的な傾向や課題など】

<等価世帯収入が低い層>や<ひとり親世帯>では、「持っている」という回答が少ない一方で、「どちらかといえば、持っている」という回答が多いことから、明確な夢や目標を持ちにくい環境にある可能性が示唆されました。

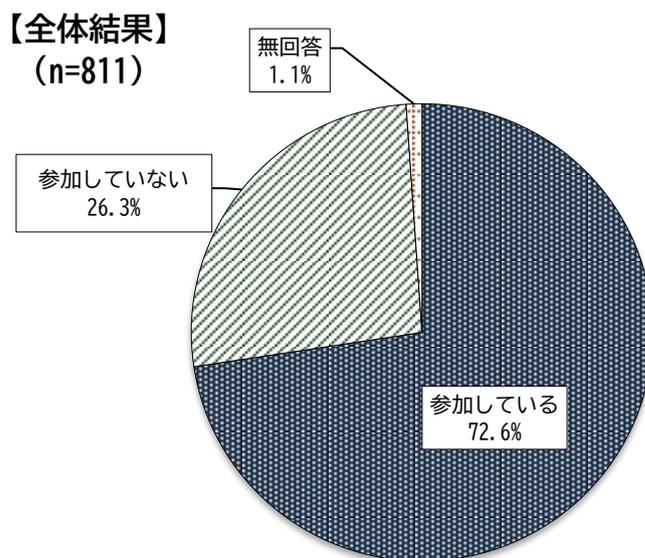
<小学5年生>では将来の夢や目標を「持っている」割合が高いことから、この年齢層でのキャリア教育や夢を育む環境の提供がより重要になると考えられます。

<中学2年生>では夢や目標を「持っていない」と答える割合が高く、中学生になると夢や目標に対する考え方が変化する人も増えています。

## 4. 諸活動への参加状況や習い事の実施状況について

### ①諸活動への参加状況

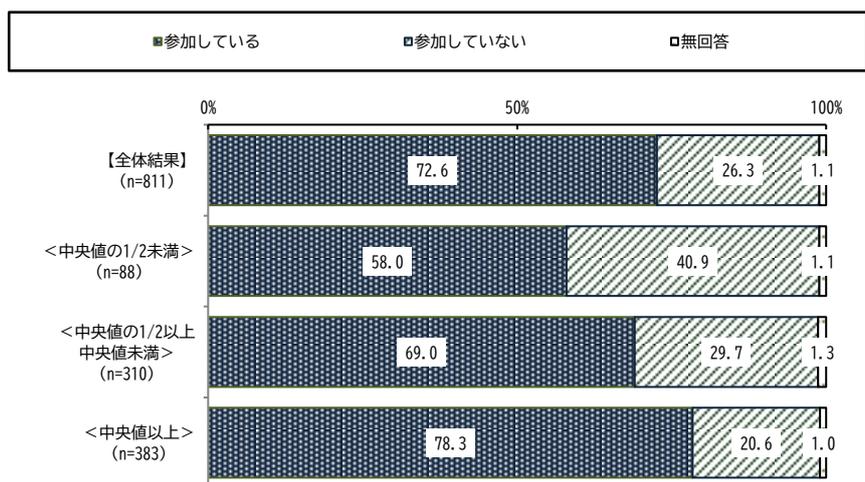
問 あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していますか。(SA)



### 【結果のサマリー】

7割以上の子どもがスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に「参加」しています。

### (等価世帯収入別にみた「諸活動への参加状況」)



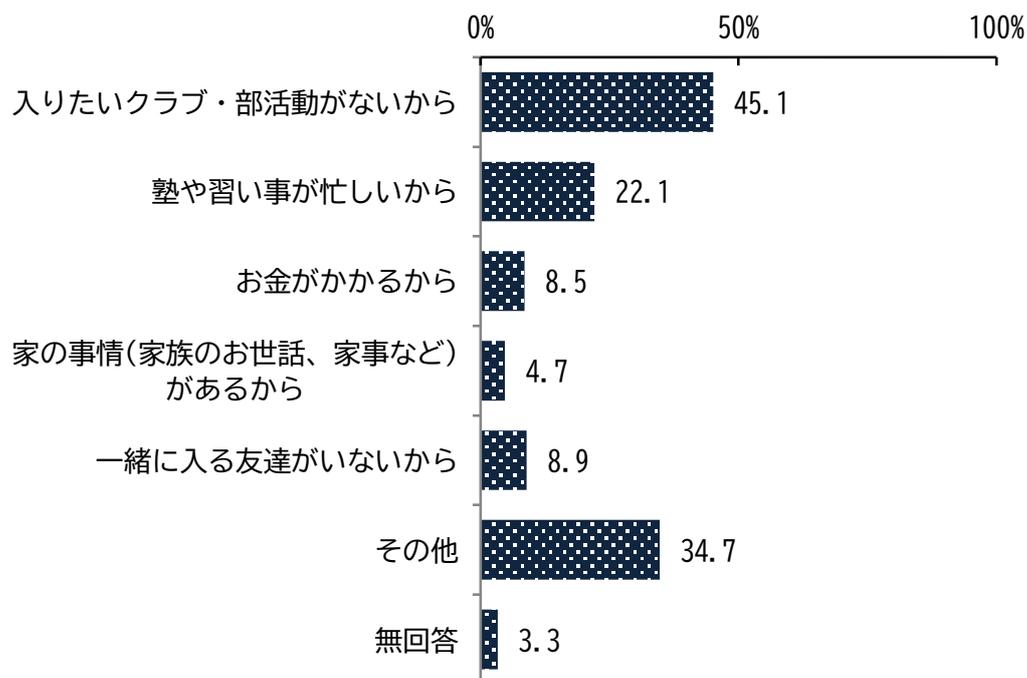
### 【特徴的な傾向や課題など】

<等価世帯収入が低い層>は「参加している」割合が6割弱と他の層よりも低くなっています。

## ②参加していない理由

該当設問 参加していない理由を教えてください。(MA)

### 【全体結果】 (n=213)



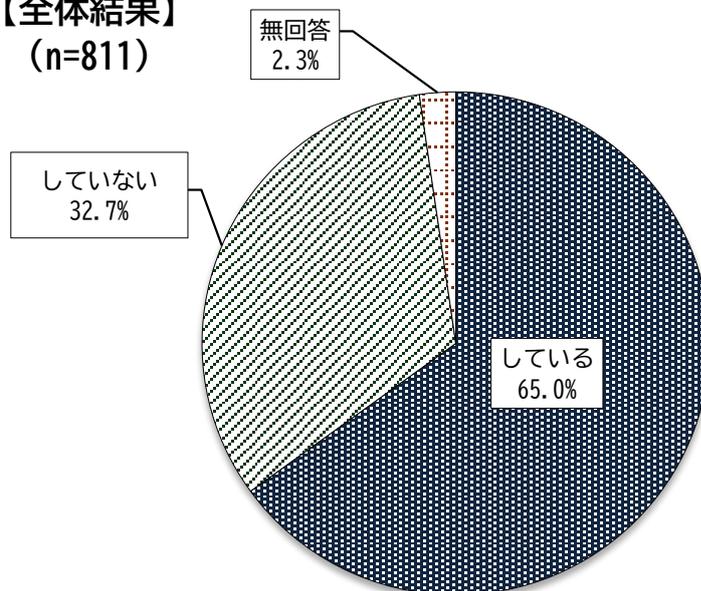
#### 【結果のサマリー】

「入りたいクラブ・部活動がないから」が4割台で最も多い理由です。

### ③習い事の実施状況

問 あなたは、習い事（スポーツや楽器のレッスン、英会話など）をしていますか。（SA）

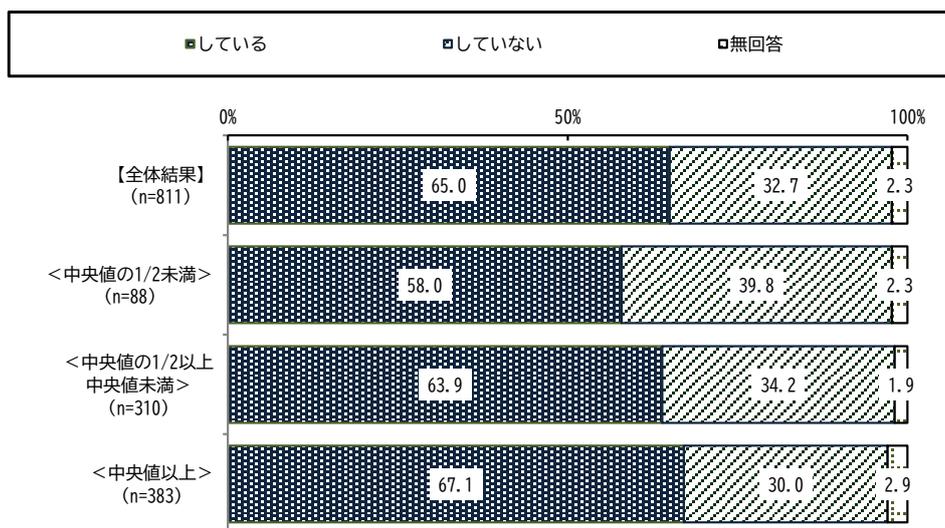
【全体結果】  
(n=811)



#### 【結果のサマリー】

約3人に2人の子どもが何らかの習い事をしています。

(等価世帯収入別・世帯構成別・学年別にみた「習い事の実施状況」)



#### 【特徴的な傾向や課題など】

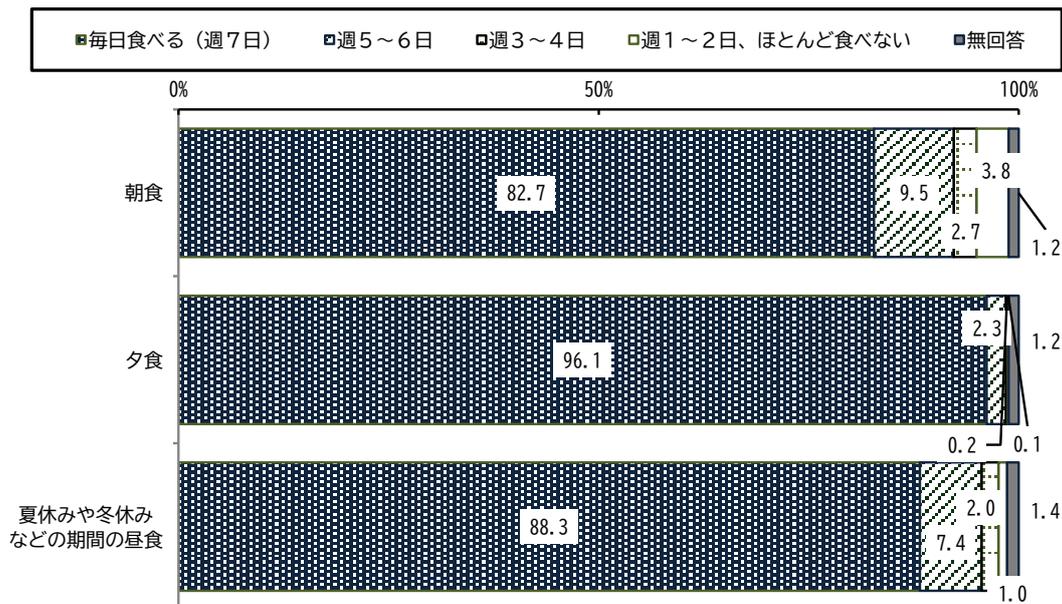
<等価世帯収入が低い層>では、習い事をしている割合が他の層よりも比較的低くなっています。

## 5. 食生活や日常生活等の状況について

### ①朝食や夕食、長期休暇時の昼食の摂食状況

問 あなたは、ふだん週にどれくらい食事をしていますか。(各 SA)  
「朝食」、「夕食」、「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」…それぞれについて

#### 【全体結果】(n=811)



#### 【結果のサマリー】

8割以上の子どもが「毎日」朝食を食べています。

大多数の子どもが「毎日」夕食を食べていますが、『毎日でない』子どもや「週1~2日やほとんど食べない」子どもがいます。

夏休みや冬休みなどの期間の昼食は、9割弱の子どもが「毎日」食べています。

#### 【特徴的な傾向や課題など】

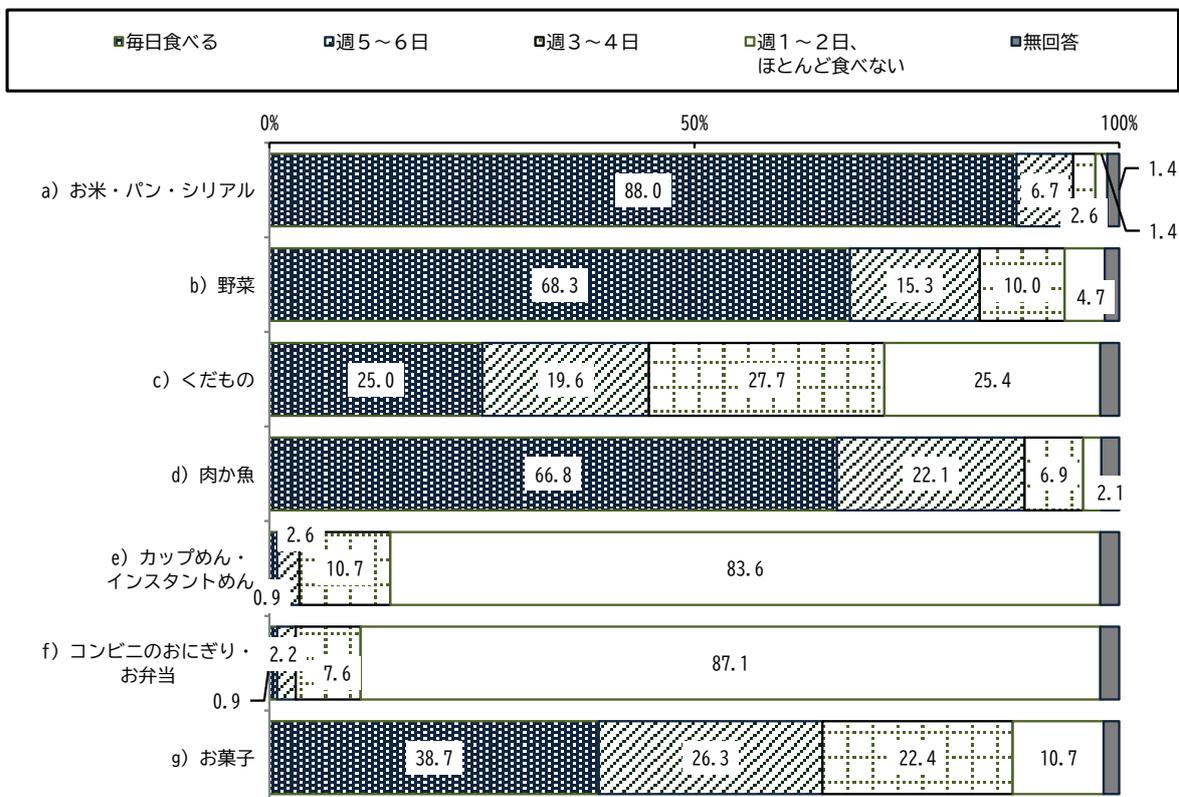
全体的に、子どもたちは定期的に食事をしているようですが、少数ながら摂食していない子どもたちがいることがわかりました。特に、これらの定期的に摂食をしていない子どもたちに対して、食事の重要性を伝え、健康的な食生活を促進する支援が必要です。

## ②各種食物の摂取状況

問 あなたは、給食以外の食事で、以下の食物をふだんどれくらい食べていますか。(各 SA)

- a) お米・パン・シリアル
- b) 野菜
- c) くだもの
- d) 肉か魚
- e) カップめん・インスタントめん
- f) コンビニのおにぎり・お弁当
- g) お菓子

### 【全体結果】(n=811)



#### 【結果のサマリー】

「お米・パン・シリアル」は、多くの子どもが定期的に摂取しています。

「野菜」は、約15%が『週3日以下』の摂食状況です。

「くだもの」は、毎日食べる子どもは4人に1人と少なく、『週3日以下』の割合が高くなっています。

「肉か魚」は、約3人に2人が「毎日」摂取しています。

「カップめん・インスタントめん」や「コンビニのおにぎり・お弁当」は、多数が「週1~2日またはほとんど食べない」と回答しています。

「お菓子」は、4割弱の子どもが「毎日」食べています。



【特徴的な傾向や課題など】

野菜とくだもの摂取頻度が比較的低い子どもがいたことがわかりました。バランスの取れた食事の重要性を伝え、野菜や果物をもっと摂取するよう促す取り組みが必要かもしれません。

カップめん・インスタントめん、コンビニのおにぎり・お弁当といった、これらの食品の摂取頻度は低いですが、健康的な食生活のためには、加工食品の過剰摂取を避けることが重要です。

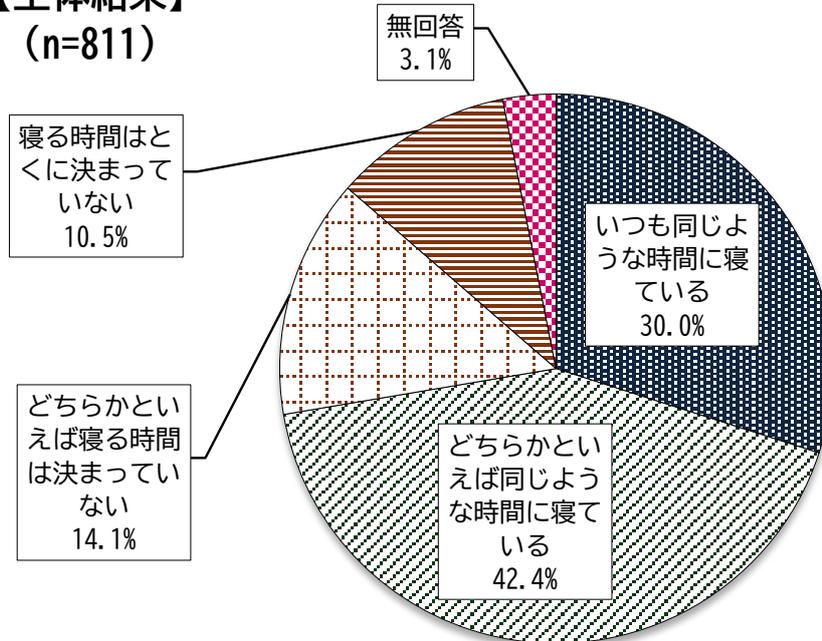
毎日お菓子を食べている子どもが多いことがわかりました。お菓子の摂取を控えめにし、代わりに栄養素を補えるような軽食を選ぶよう促すことが大切です。

一般的に、子どもたちの食生活にはバランスの取れた食事の重要性を伝え、健康的な食習慣を促進するための教育が必要とされます。特に野菜や果物の摂取を増やし、加工食品やお菓子の過剰摂取を避けることが重要です。

### ③就寝状況

問 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)同じ時間に寝ていますか。(SA)

#### 【全体結果】 (n=811)



#### 【結果のサマリー】

約3割の子どもが「いつも同じような時間に寝ている」と回答しています。

「どちらかといえば同じような時間に寝ている」という回答は4割強で最も多く、合わせて7割強の子どもがある程度一貫した就寝時間を保っていることがわかりました。

一方で、「どちらかといえば寝る時間は決まっていない」と「寝る時間はとくに決まっていない」を合わせると、約4人に1人の子どもが不規則な就寝時間です。

#### 【特徴的な傾向や課題など】

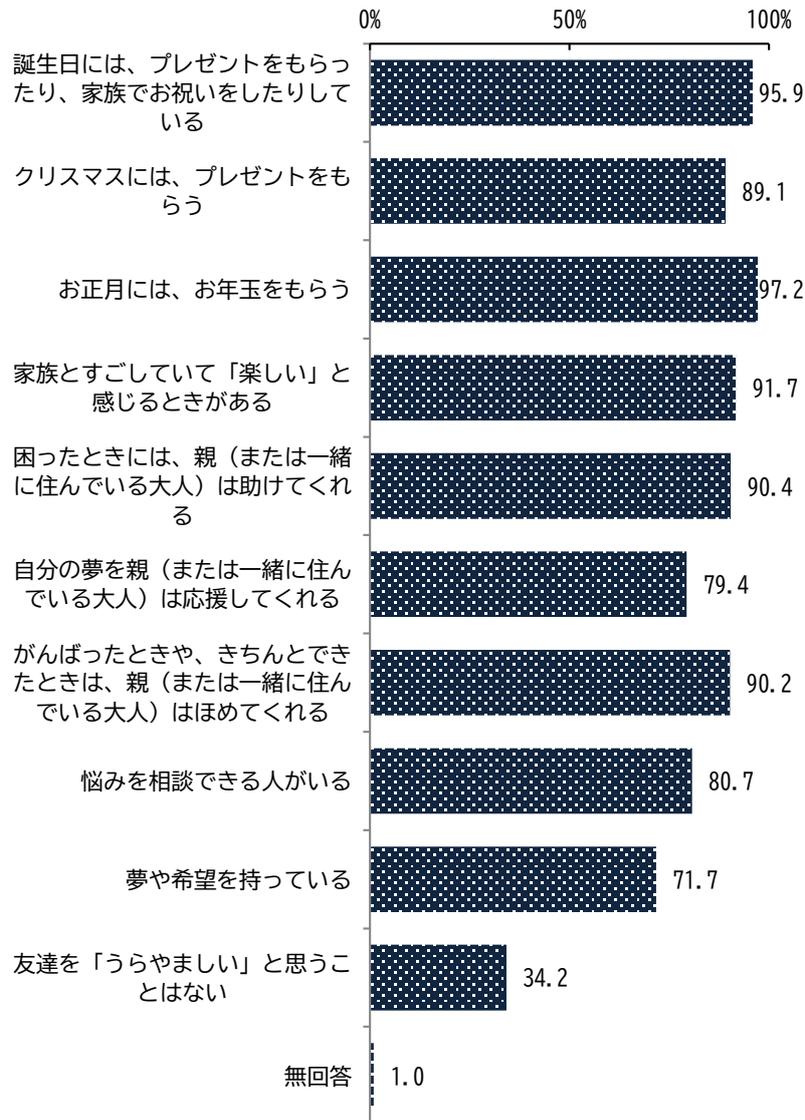
約4分の1の子どもが不規則な就寝時間であることがわかりました。不規則な睡眠は健康に悪影響を及ぼす可能性があるため、定期的な睡眠習慣の重要性を子どもたちに教えることが重要です。

定期的な睡眠習慣の形成を支援するために、学校や家庭での教育プログラムや啓発活動が必要かもしれません。また、不規則な就寝時間を持つ子どもたちの背景を理解し、それに対応するための支援策の検討を始めることも重要です。

#### ④自身にあてまること

問 あなた自身のことについて、以下の中で、あてはまるものを教えてください。(MA)

#### 【全体結果】 (n=811)



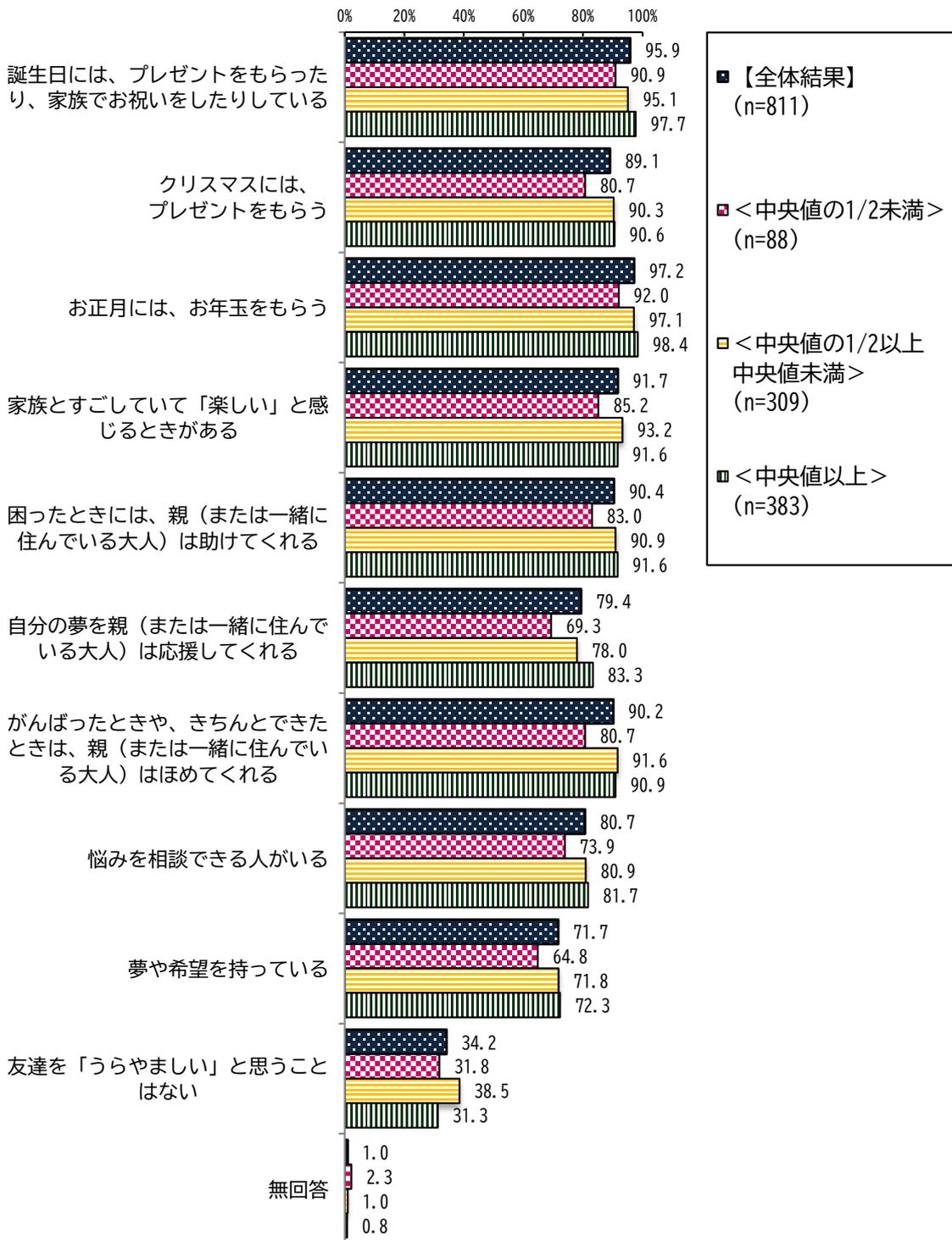
#### 【結果のサマリー】

大多数の子どもは誕生日やクリスマス、お正月に家族とともに祝い、プレゼントやお年玉を受け取っています。

家族との楽しい時間を過ごしていると感じる子どもも多く、親や家族からのサポートや称賛を受けていると感じている子どもも多数います。

一方で、「友達をうらやましいと思うことはない」子どもは3人に1人程度にとどまります。

(等価世帯収入別に見た「自身にあてまること」)



【特徴的な傾向や課題など】

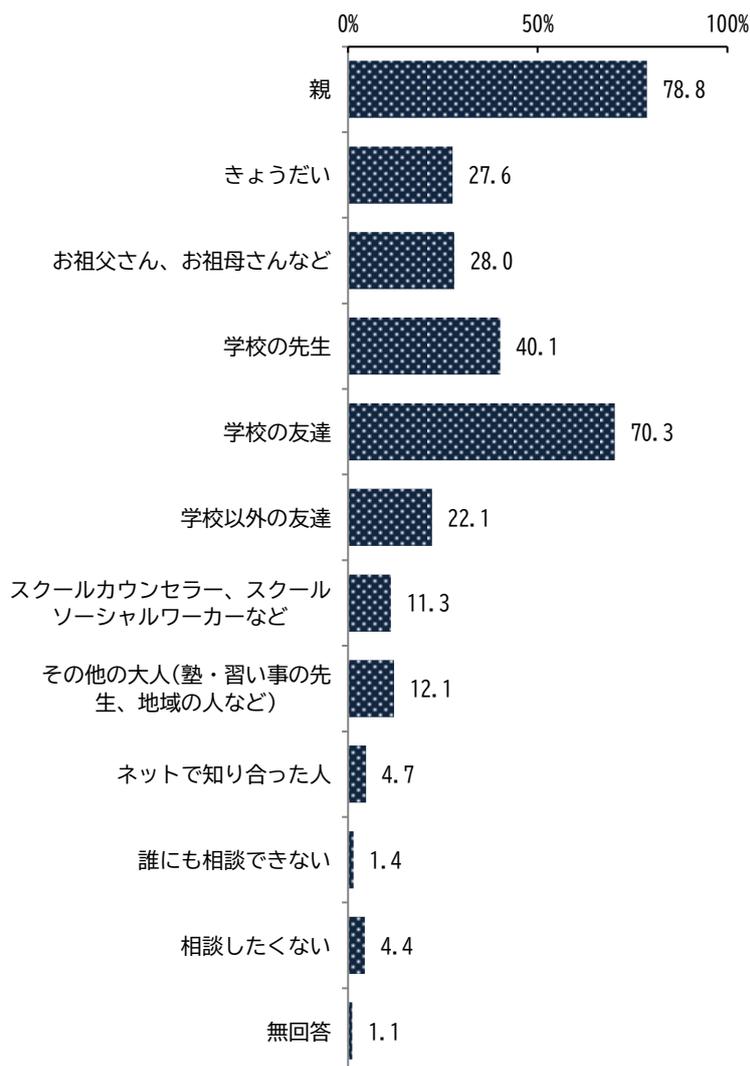
<等価世帯収入が低い層>では、項目全般的に肯定的な回答の割合が他の層よりも低い傾向があります。

<中央値以上>の層では、項目全般的に肯定的な回答の割合が他の層よりも高い傾向があります。

## 6. 相談できると思う人について

問 あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人は誰ですか。  
(MA)

### 【全体結果】 (n=811)

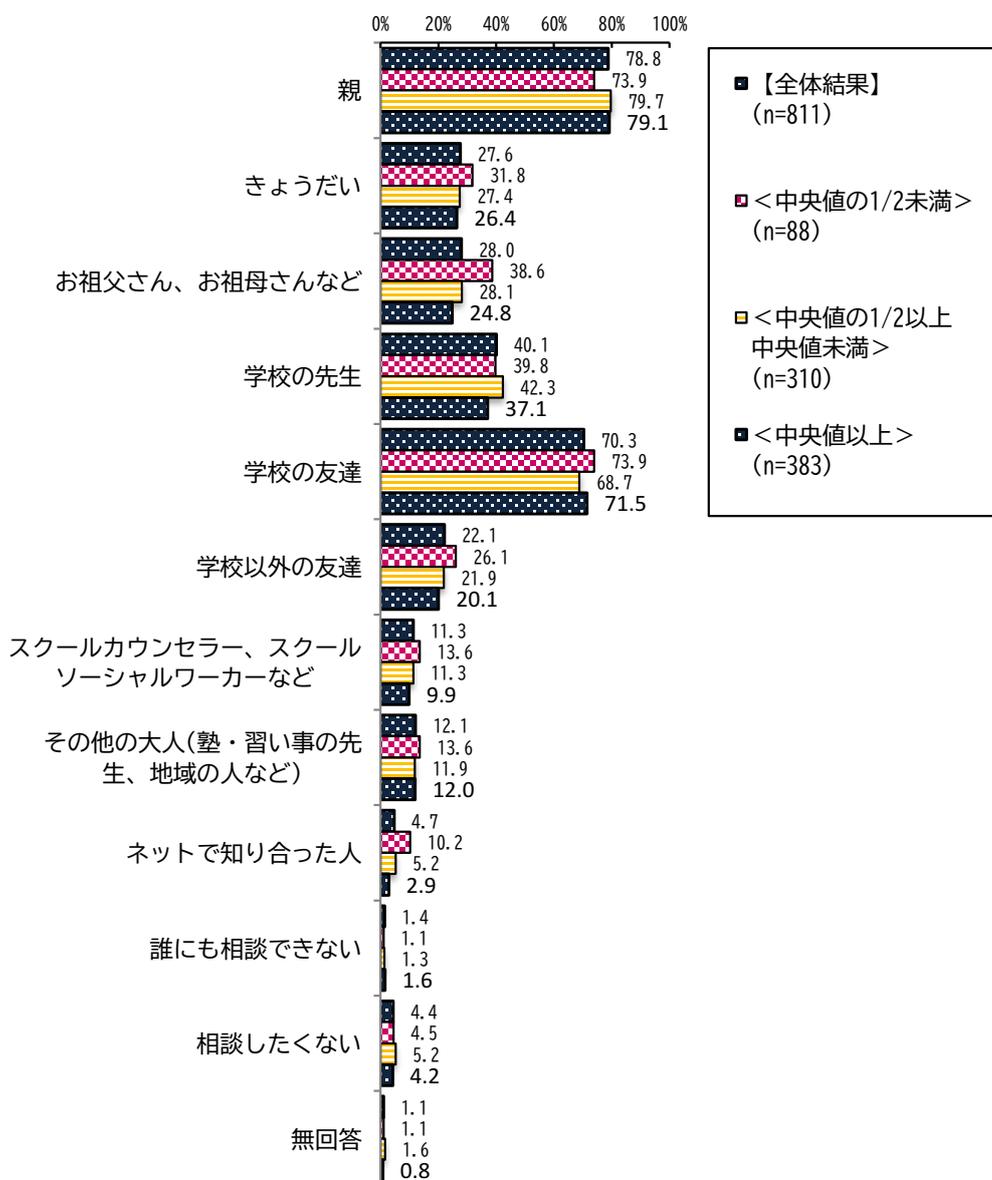


#### 【結果のサマリー】

相談相手として最も多いのは「親」です。8割弱の子どもが困ったときに親に相談できているとされています。「学校の友達」が約7割で続きます。

一方で、「誰にも相談できない」子どもも少数ですが存在します。

(等価世帯収入別「相談できると思う人」)



【特徴的な傾向や課題など】

<等価世帯収入が低い層>では、「お祖父さん、お祖母さんなど」に相談できると思う割合が他の層よりも高くなっています。また、「ネットで知り合った人」に相談できると思う割合も約1割とやや高めです。

親や学校の友達に相談できると思っている子どもが多いのは良い傾向ですが、学校の先生に相談できると思っている子どもの割合が4割程度とやや低いのは今後の検討課題です。

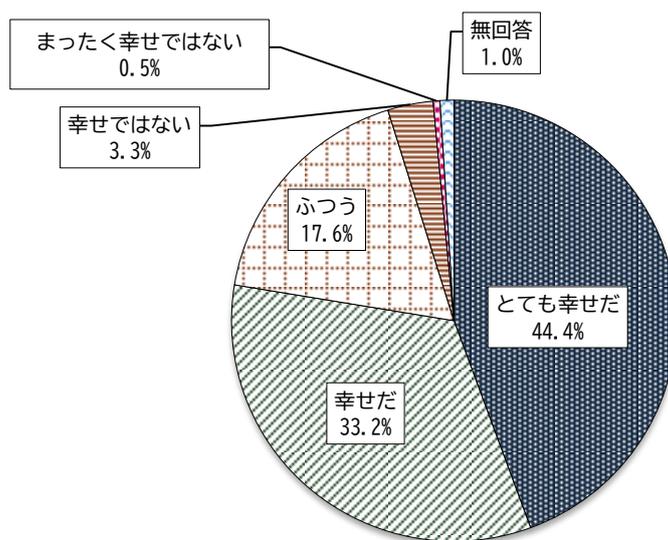
「誰にも相談できない」と思っている子どもが一定数存在することは懸念点です。これらの子どもたちが安心して相談できる環境を整備することが重要です。

## 7. 幸福感や子どもの心理的な状態、逆境体験について

### ① 幸福感

問 あなたは、今の生活をどのくらい幸せだと感じますか。(SA)

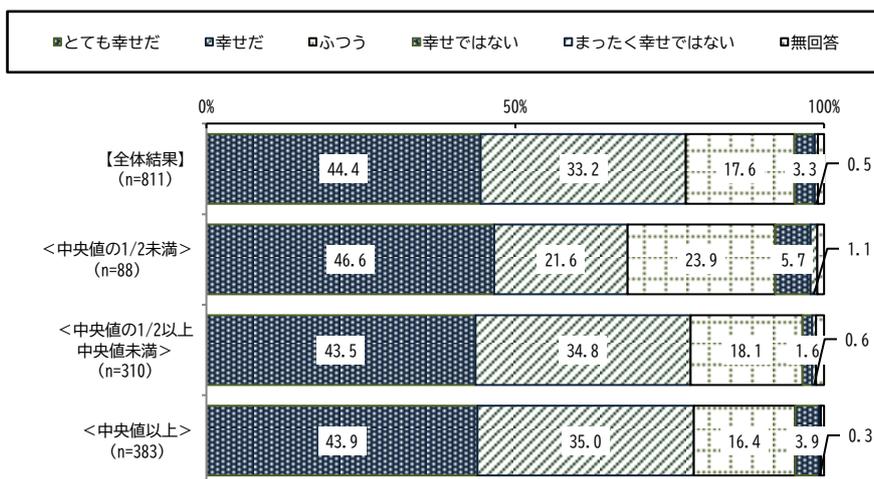
【全体結果】(n=811)



#### 【結果のサマリー】

4人に3人以上(77.6%)の子どもが「とても幸せだ」または「幸せだ」と感じています。

(等価世帯収入別・世帯構成別・学年別にみた「幸福感」)



#### 【特徴的な傾向や課題など】

多くの子どもは現在の生活に対して幸せを感じていますが、一部の子どもたち、特に<等価世帯収入が低い層>の子どもは、幸せを感じる割合がやや低いことがわかりました。<等価世帯収入が低い層>では、「とても幸せだ」と回答した割合は他の層より若干高くなっていますが、「幸せだ」と回答した割合は約2割と低く、「幸せではない」と感じる割合が他の層よりも高くなっており、経済的な要因が子どもの幸福感に影響を与えている可能性があります。

## ②情緒の問題

問 以下の5項目について、「あてはまらない」「まああてはまる」「あてはまる」のどれかから答えてください。あなたのここ半年くらいのことを考えて答えてください。(各SA)

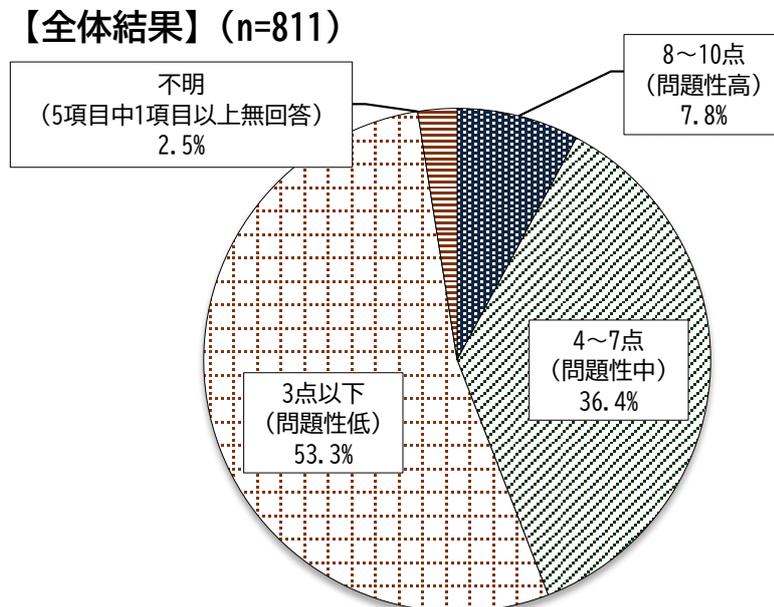
- 1)私は、よく頭やお腹が痛くなったり、気持ちが悪くなったりする
- 2)私は、心配ごとが多く、いつも不安だ
- 3)私は、落ち込んでいたり、泣きたくなったりすることがよくある
- 4)私は、新しいことを始めようとすると不安になり、自信をなくしやすい
- 5)私は、怖がりです、すぐにおびえたりする

選択肢：「あてはまらない (=0点)」、「まああてはまる (=1点)」、「あてはまる (=2点)」

「子どもの心理的な状態」に関して、本調査では「強さと困難さアンケート (SDQ : Strengths and Difficulties Questionnaire)」の調査項目のうち、「情緒 (不安や抑うつなど)」の問題、「仲間関係」の問題、「向社会性」を把握するための全15項目を設定しました。

本項では、このうち上記の5つの調査項目の結果を足し合わせて、スコアを算出しています (0~10点)。

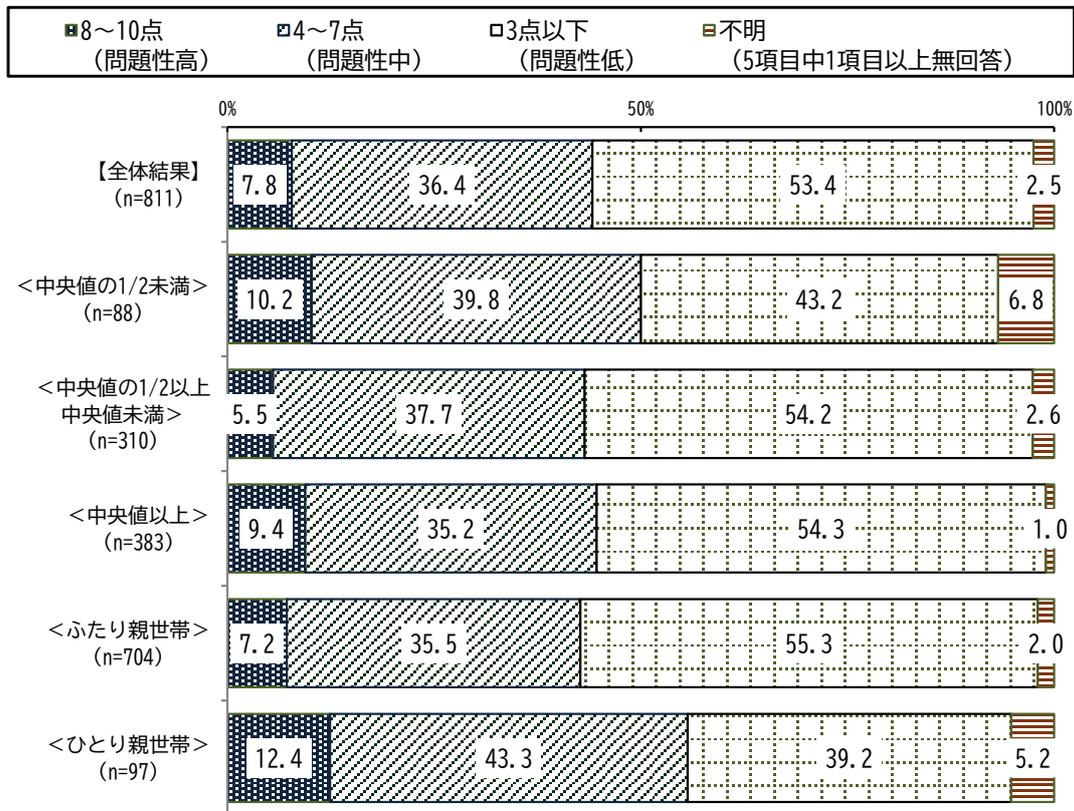
「情緒の問題」に関して、スコアが高いほど、問題性が高いと考えられます。



### 【結果のサマリー】

「問題性の高い」子どもが1割弱います。

(等価世帯収入別・世帯構成別にみた「情緒の問題」)



【特徴的な傾向や課題など】

<等価世帯収入が低い層>と<ひとり親世帯>の子どもでは、「問題性の高い」子どもの割合が1割を超えており、これらの子どもが直面している精神的な課題が示唆されました。経済的な不安や家庭環境がこれらの問題に影響を与えている可能性があります。

### ③仲間関係の問題

問 以下の5項目について、「あてはまらない」「まああてはまる」「あてはまる」のどれかから答えてください。あなたのここ半年くらいのことを考えて答えてください。(各SA)

- 1)私は、だいたいいつも一人にいる  
一人で遊んだり、他の人を避けたりすることが多い
- 2)私は、仲のよい友達が少なくとも一人はいる※
- 3)私は、同じくらいの年齢の子どもからは、だいたいは好かれている※
- 4)私は、他の子どもから、いじめられたり、からかわれたりする
- 5)私は、他の子どもたちといるより、大人といるほうが楽しい

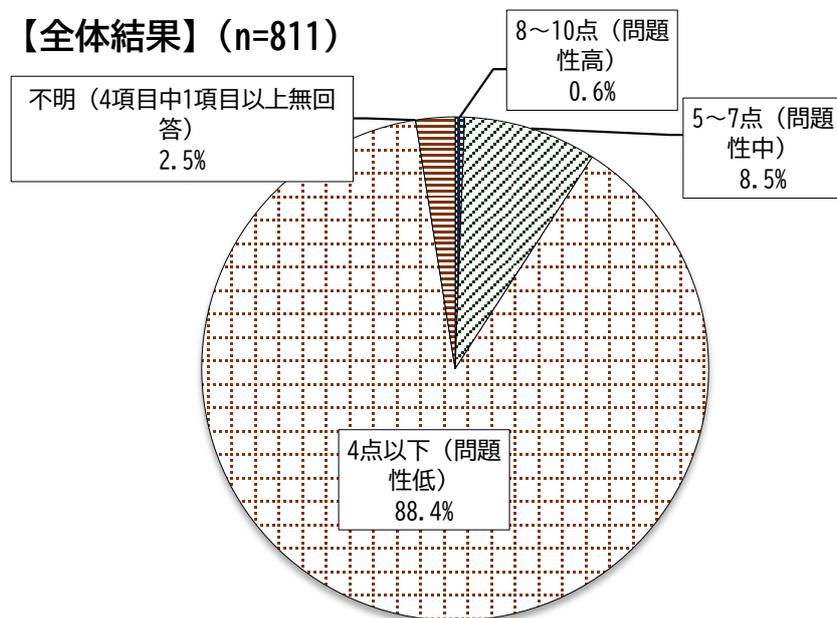
選択肢：「あてはまらない (=0点)」、「まああてはまる (=1点)」、「あてはまる (=2点)」

※「2)私は、仲のよい友達が少なくとも一人はいる」と

「3)私は、同じくらいの年代の子どもからは、だいたいは好かれている」の項目は逆転項目としてスコアを算出しました。

本項では、上記の5つの調査項目の結果を足し合わせて、スコアを算出しています(0~10点)。

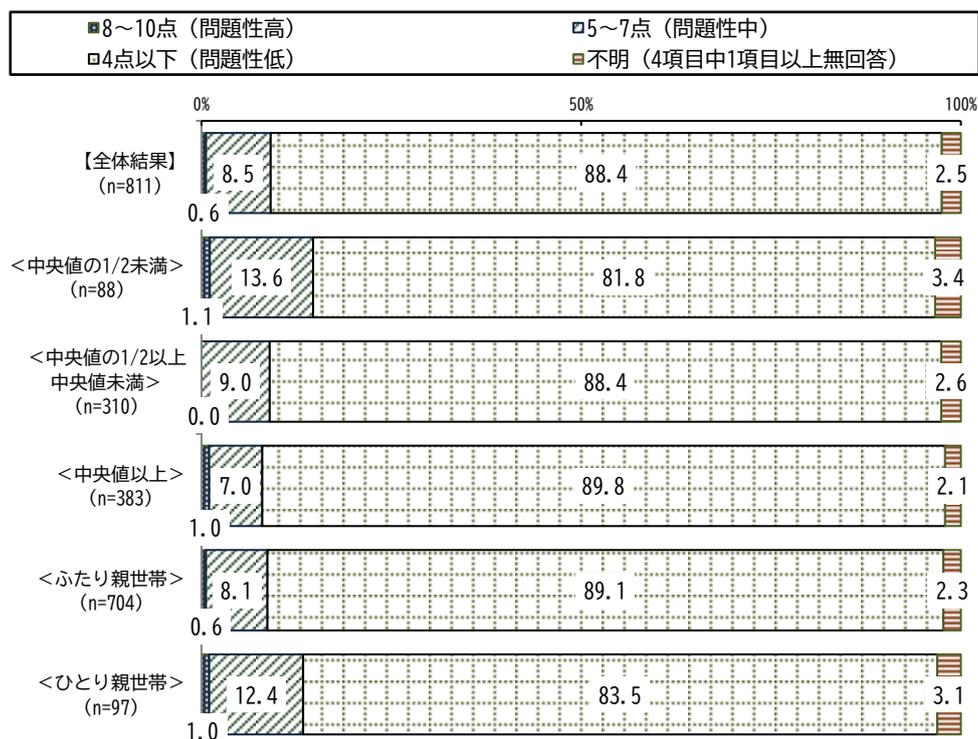
「仲間関係の問題」に関して、スコアが高いほど、問題性が高いと考えられます。



#### 【結果のサマリー】

「問題性が中程度以上」の子どもが1割弱います。

(等価世帯収入別・世帯構成別にみた「仲間関係の問題」)



【特徴的な傾向や課題など】

<等価世帯収入が低い層>と<ひとり親世帯>の子どもでは、「問題性が中程度以上」の子どもの割合が1割を超えており、これらの子どもが直面している社会的な関係性の課題が示唆されました。経済的な不安や家庭環境がこれらの問題に影響を与えている可能性があります。

#### ④向社会性

問 以下の5項目について、「あてはまらない」「まああてはまる」「あてはまる」のどれかから答えてください。あなたのここ半年くらいのことを考えて答えてください。(各SA)

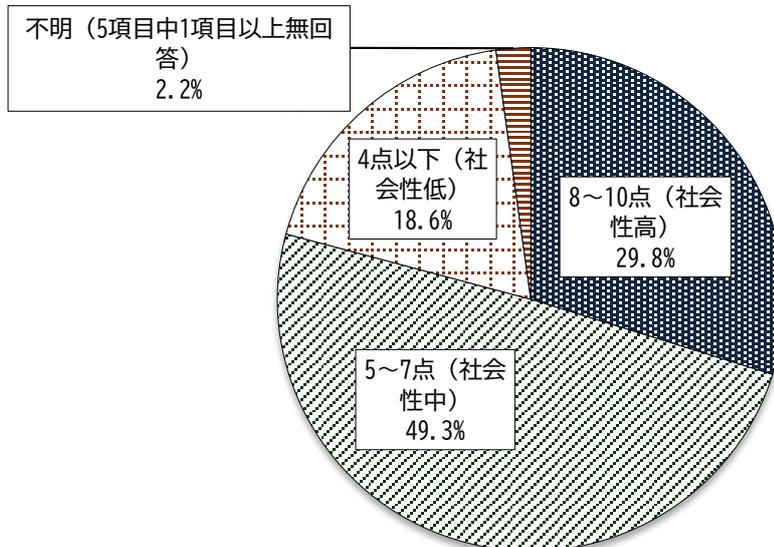
- 1)私は、他の人に親切にするようにしている。私は、他の人の気持ちをよく考える
- 2)私は、他の子どもたちと、よく分け合う(食べ物・ゲーム・ペンなど)
- 3)私は、だれかが悲しんでいた、落ち込んでいたり、いやな思いをしていたりするときは、進んで助ける
- 4)私は、年下の子どもたちに優しくしている
- 5)私は、自分から進んでよくお手伝いをする  
(親・学校の先生・他の子どもたちに対してなど)

選択肢:「あてはまらない(=0点)」、「まああてはまる(=1点)」、「あてはまる(=2点)」

本項では、上記の5つの調査項目の結果を足し合わせて、スコアを算出しています(0~10点)。

「向社会性」に関して、スコアが高いほど、社会性が高いと考えられます。

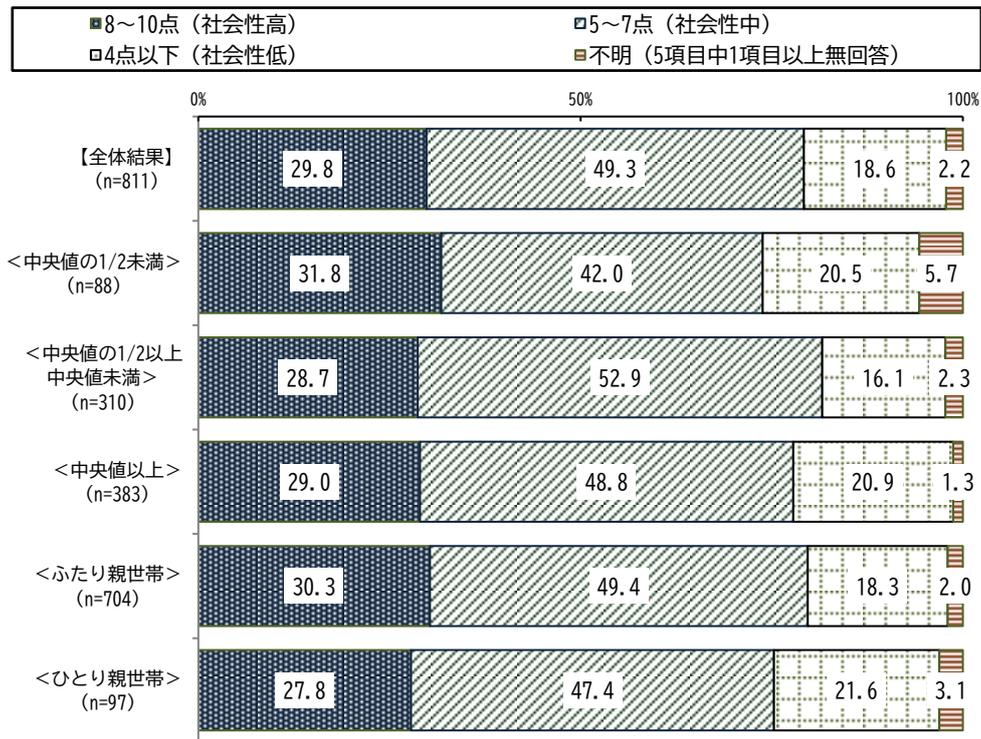
#### 【全体結果】(n=811)



#### 【結果のサマリー】

「社会性の低い」子どもは2割弱います。

(等価世帯収入別・世帯構成別にみた「向社会性」)



【特徴的な傾向や課題など】

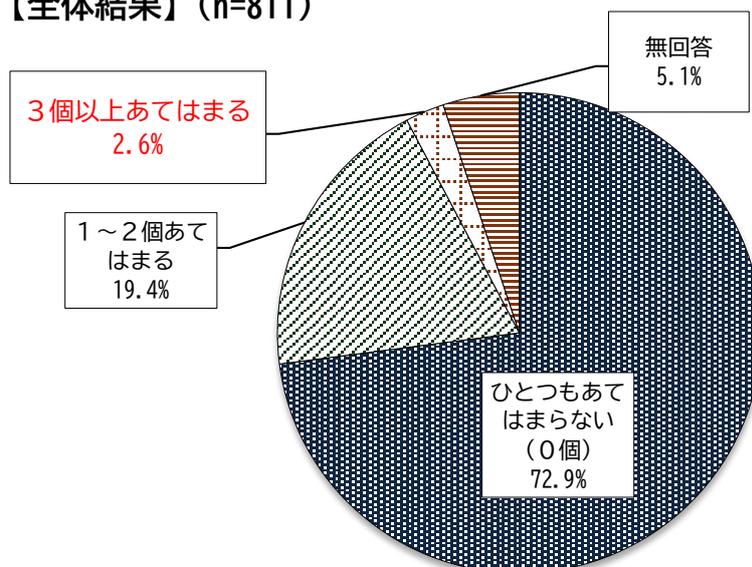
<等価世帯収入が低い層>で「向社会性の高い」子どもの割合が若干高くなっていますが、等価世帯収入別や世帯構成別にみて目立った差異はみられませんでした。

## ⑤逆境体験

問 あなたは今までに、以下の a~h のようなことがありましたか。いくつあてはまるかを答えてください。(SA)

- a あなたが、一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言われる、けなされる、恥をかかされる、身体を傷つけられると思うような行動や態度をされることがよくある
- b あなたが、一緒に住んでいる大人から、押される、つかまれる、たたかれる、けられる、物を投げつけられることがよくある。または、けがをするほど強くなぐられたことがある
- c あなたは、自分が家族の誰からも愛されていない、大切にされていない、支えてもらえていないと感じることがある
- d あなたは、必要な食事や服をもらえないことがある。または、自分を守ってくれる人は誰もいないと感じることがある
- e あなたの両親が、別居または離婚をしたことがある
- f 一緒に住んでいる人が、誰かに押される、つかまれる、けられることがよくある。または、くり返しなぐられる、刃物などでおどされたことがある
- g 一緒に住んでいる人が、お酒や麻薬などのせいで自分の生活や人間関係を悪くするような行動や態度をしたことがある
- h 一緒に住んでいる人が、うつ病やその他の心の病気になったことがある。または、自殺しようとしたことがある

### 【全体結果】(n=811)



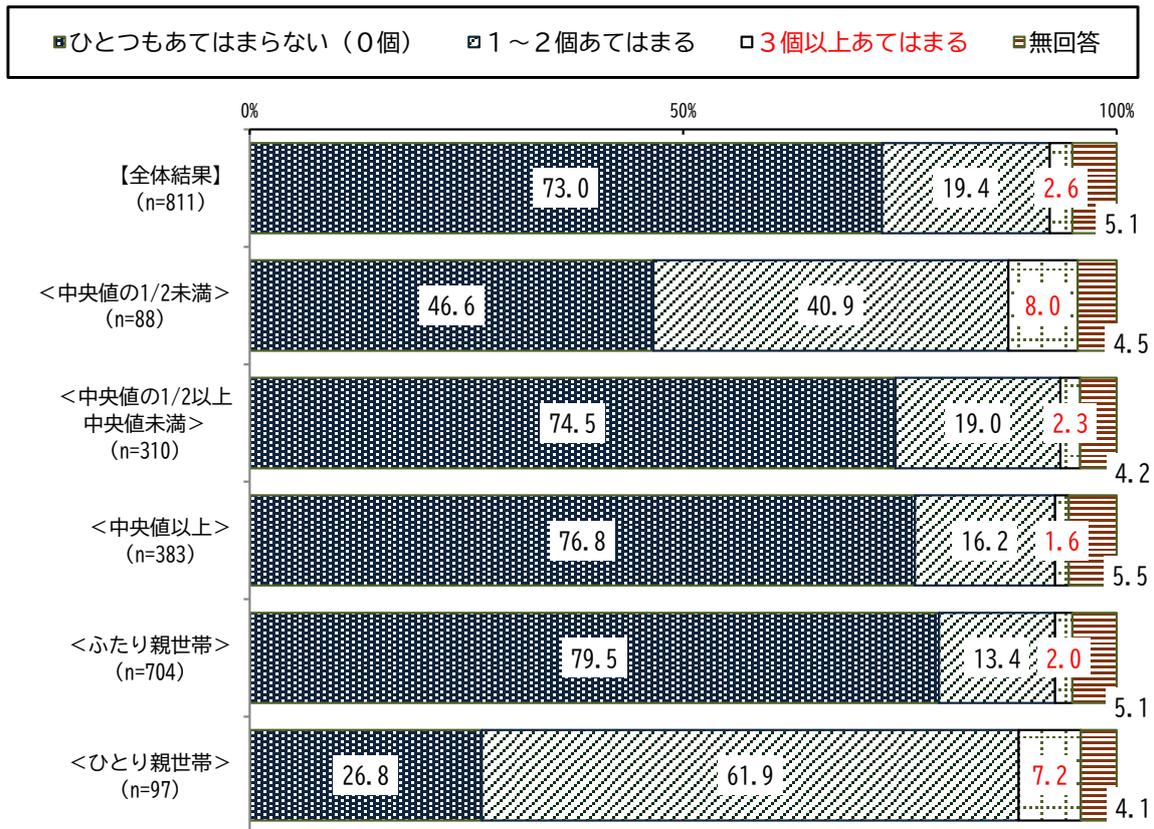
### 【結果のサマリー】

7割強の子どもが逆境体験について「ひとつもあてはまらない」と回答しています。

「1~2個あてはまる」と回答した子どもは約2割です。

割合は僅かですが「3個以上あてはまる」と回答した子どももいます。

(等価世帯収入別・世帯構成別・学年別にみた「逆境体験」)



【特徴的な傾向や課題など】

<等価世帯収入が低い層>と<ひとり親世帯>の子どもでは、「ひとつもあてはまらない」の割合が他の層に比べてかなり低く、逆境体験にあてはまる項目が多いことがわかりました。経済的な不安や家庭環境の問題が影響している可能性があります。

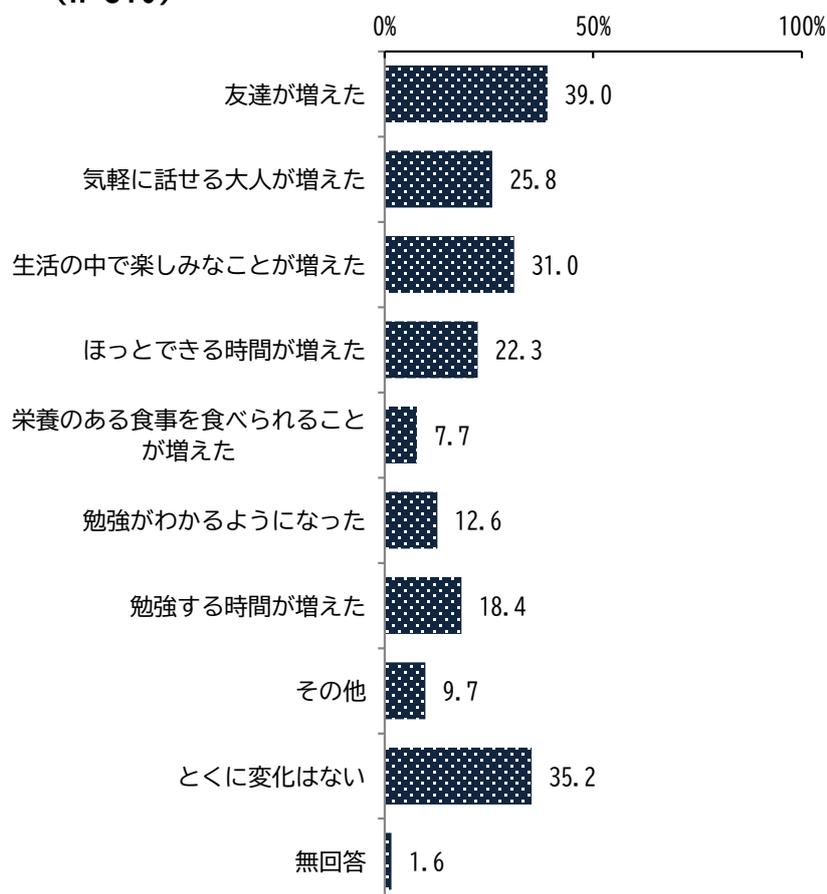
子どもが逆境体験から回復し、健全な発達を遂げるためには、特に経済的に厳しい環境にある子どもたちやひとり親世帯の子どもたちに対して、心理的なサポートやカウンセリングサービスの提供が重要となります。



## ②利用したことによる状況の変化

該当設問 そこを利用したことで、以下のような変化がありましたか。(MA)

### 【全体結果】 (n=310)



#### 【結果のサマリー】

利用したことがある子どものうち、約4割が「友達が増えた」と感じています。

#### 【特徴的な傾向や課題など】

「とくに変化はない」と感じている子どもたちの割合が高いことから、場所（施設）の提供するサービスや活動がすべての子どもにとって有意義であるとは限らないことが示唆されています。プログラムやサービスの質を向上させるための検討が求められます。

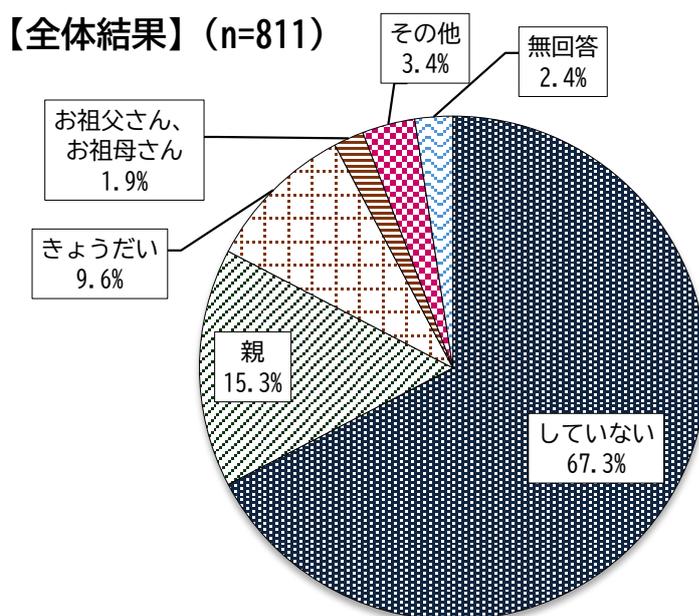
場所（施設）が子どもの社会的なつながりや精神的な充実に寄与していることはわかりますが、教育的な支援やサービスの質に関しては改善の余地があると考えられます。

## 9. 家族ケア（世話や家事）の状況について

### ①家族ケアの実施状況

問 あなたは、ふだん（月曜日～日曜日）大人の人に代わって、家族のお世話や家事をしていますか。している場合、誰のお世話をしていますか。（SA※）

※本設問は単数回答設問として調査したが、ケアの相手を複数回答するケースもみられたため、複数回答設問として集計している。



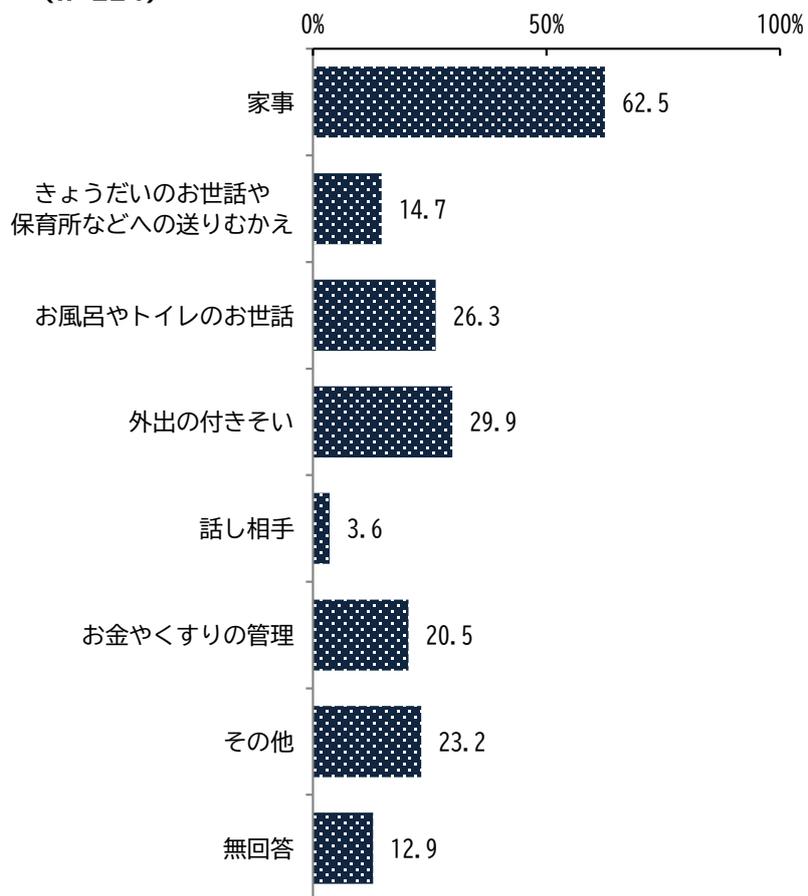
#### 【結果のサマリー】

大多数の子どもは、家族のお世話や家事を「していない」と回答していますが、一定割合の子どもは家族のお世話や家事をしており、その中では、「親」や「きょうだい」のお世話をする子どもが多くなっています。

## ②家族ケアの内容

該当設問 どのようなお世話をしていますか。(MA)

### 【全体結果】 (n=224)



### 【結果のサマリー】

「家事」が最も多く行われているお世話の内容です。

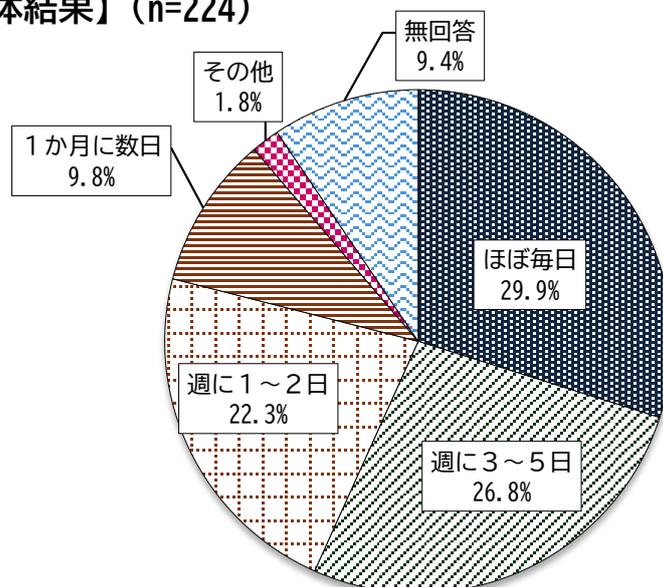
「お風呂やトイレのお世話」、「外出の付きそい」、「お金やくすりの管理」も一定割合の子どもが行っています。

家族のお世話をする子どもは、日常生活に関わるさまざまなお世話を行っていることがわかりました。

### ③家族ケアの頻度

該当設問 どれくらいお世話していますか。(SA)

#### 【全体結果】(n=224)



#### 【結果のサマリー】

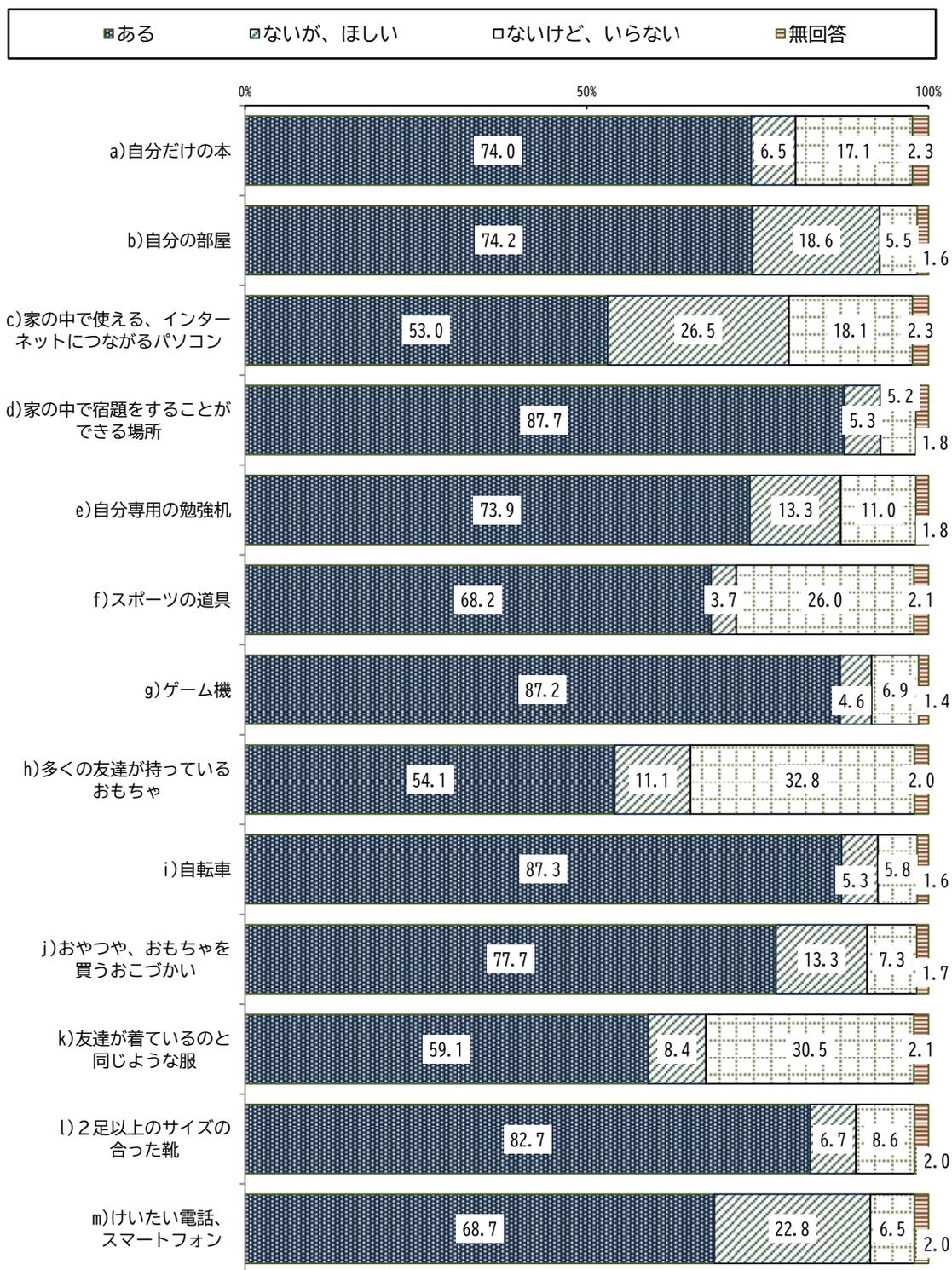
お世話の頻度に関しては、約3割の子どもが「ほぼ毎日」お世話をしています。

## 10. 自身で使用可能なもの等の所有について

問 あなたは、自分が使うことができる、以下のものがありますか。ない場合は、それがほしいものであれば「ほしい」、いらなと思うものであれば「いらない」をえらんでください。  
(各 SA)

- a)自分だけの本（学校の教科書やマンガは除く）
- b)自分の部屋（きょうだいと使っている場合も含みます）
- c)家の中で使える、インターネットにつながるパソコン
- d)家の中で宿題をすることができる場所
- e)自分専用の勉強机
- f)スポーツの道具（野球のグローブや、サッカーボールなど）
- g)ゲーム機
- h)多くの友達を持っているおもちゃ
- i)自転車
- j)おやつや、おもちゃを買うおこづかい
- k)友達が着ているのと同じような服
- l)2足以上のサイズの合った靴
- m)けいたい電話、スマートフォン

【全体結果】(n=811)



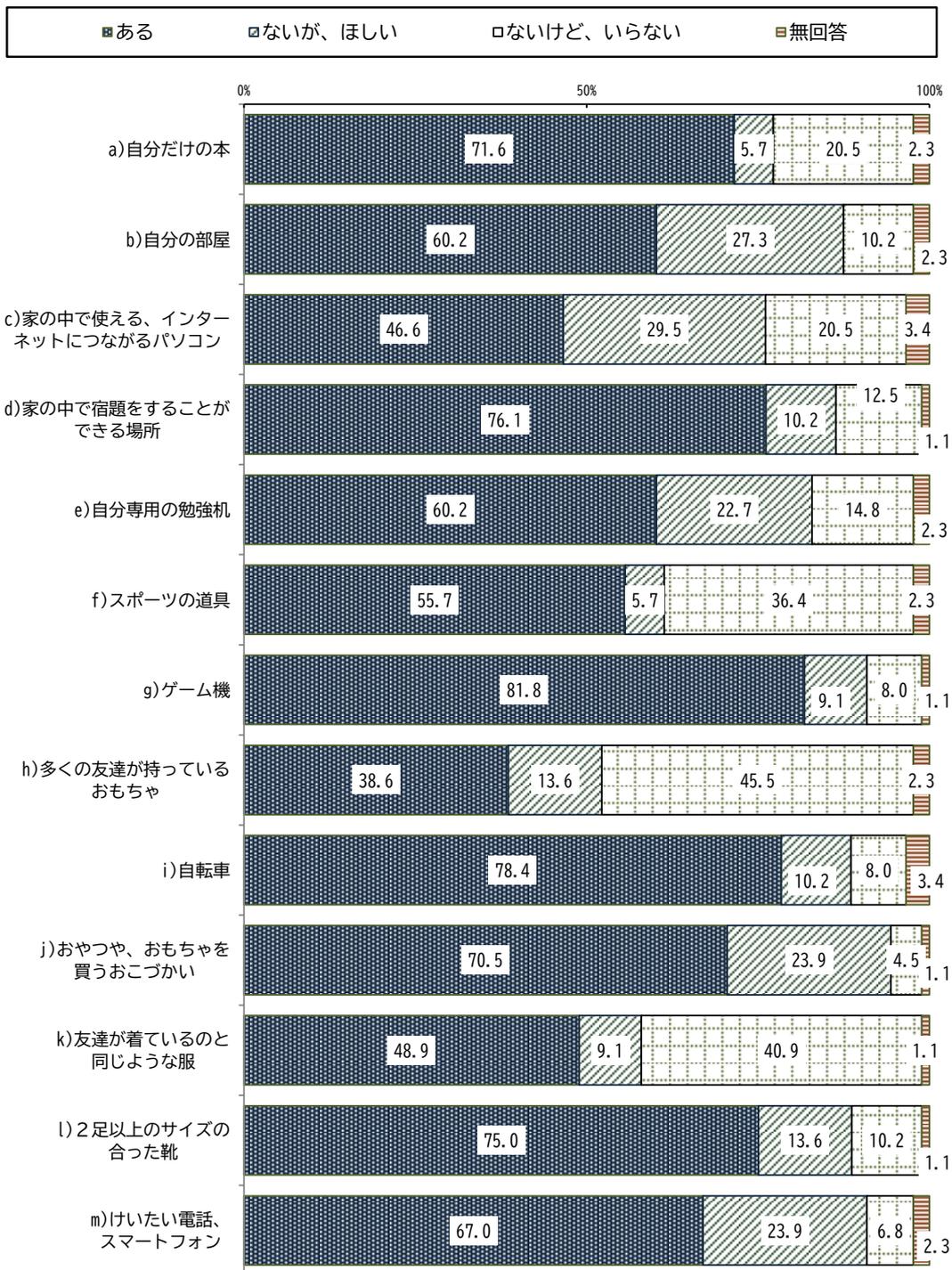
【結果のサマリー】

大多数の子どもたちは「自分の部屋」、「自転車」、「ゲーム機」を持っています。

「自分専用の勉強机」や「おやつや、おもちゃを買うおこづかい」を持っている子ども多数いますが、持っていない子どもの中にはそれをほしいと感じている子ども一定数います。

(＜等価世帯収入が低い層＞の「自身で使用可能なもの等の所有について」)

＜等価世帯収入が低い層＞(n=88)



【特徴的な傾向や課題など】

＜等価世帯収入が低い層＞では、全体結果と比較して、「自分の部屋」や「自分専用の勉強机」を持っている割合が低く、それらをほしいと感じている子どもの割合も高くなっています。

また、この層の子どもは、「多くの友達を持っているおもちゃ」や「友達が着ているのと同じような服」を持っている割合が全体結果よりも低く、それらをほしいと感じる割合がやや高い傾向があります。